ICOM

取扱説明書

携帯型デジタル簡易無線機

IC-DPR5

この無線機をご使用の際には、総務省総合通信局への無線局の登録申請が必要です。
必ず登録申請をして、登録状が手元に届いてからご使用ください。
無線局の登録申請手続きをしないで運用されますと、不法無線局となり1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなりますのでご注意ください。

Icom Inc.

はじめに

このたびは、本製品をお買い上げいただきまして、まことにありがとうございます。

本製品は、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた登録局対応の携帯型デジタル簡易無線機です。

ご使用の前に、この取扱説明書をよくお読みいただき、本機の性能を十分発揮していただくとともに、末長くご愛用くださいますようお願い申し上げます。

チャンネルについて

◎CH01~CH14、CH16~CH30 :陸上用チャンネル
◎CH15(呼出CH)★1. :呼出用チャンネル
◎CH S1~CH S5★2. :上空用チャンネル

★1.一時的な呼び出しをするときに使用します。(☞Pvi、P9)
多くの局が呼出用チャンネルを使用しますので、呼び出し後の通話は、空いている陸上用チャンネルに切り替えてから通話をつづけてください。
★2.上空用チャンネルでは送信できません。
出荷時、上空用チャンネルの使用は、「OFF」(☞P38)に設定されています。

使用後はリサイクルへ

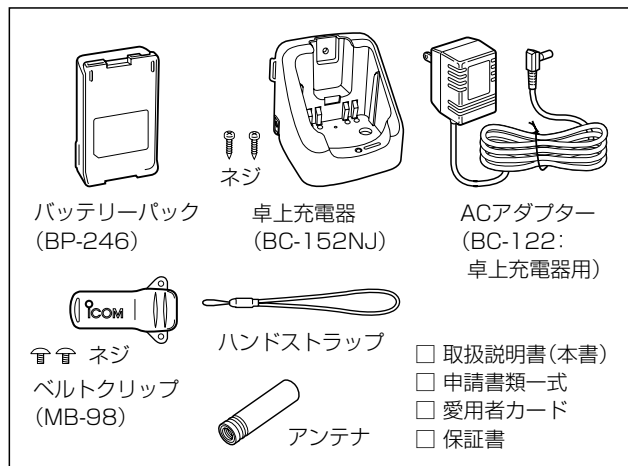
この製品は充電式電池使用機器です。
希少な金属を再利用し、地球環境を維持するために、不要になった電池は廃棄せず、充電式電池リサイクル協力店へご持参ください。

音声圧縮(符号化)方式について

本製品は、米国DVS社の開発したAMBE(Advanced Multi-Band Evcitation)方式を採用しており、AMBE+2TM方式に対応しています。

The AMBE+2TM voice coding Technology embodied in this product is protected by intellectual property rights including patent rights, copyrights and trade secrets of Digital Voice Systems, Inc. This voice coding Technology is licensed solely for use within this Communications Equipment. The user of this Technology is explicitly prohibited from attempting to extract, remove, decompile, reverse engineer, or disassemble the Object Code, or in any other way convert the Object Code into a human-readable form U.S. Patent Nos. #5,870,405, #5,826,222, #5,701,390, #5,715,365, #5,649,050, #5,630,011, #5,581,656, #5,517,511, #5,491,772, #5,247,579, #5,226,084 and #5,195,166.

登録商標/著作権について

付属品について

※付属品の一部は、別売品（☞9章）としてもご用意しています。

本製品の概要

◎ 本製品は、電波法に基づいて、技術基準適合証明（工事設計認証）を受けた製品です。

◎ IP57（防塵形★1.と防浸形★2.）相当の性能に対応できるように設計されています。（バッテリーパック、アンテナ装着時に限る）

◎ デジタル無線機の特長として、高音質で通話ができます。

◎ プライベートチャンネルスキャン機能により、指定した2つの通話チャンネルの信号を交互に監視できます。

◎個別呼び出し機能を使用しない場合、種別コード「3R」の他社製デジタル簡易無線機と通話互換があります。★3.

★ 1. バッテリーパック、アンテナを正しく装着した状態で、試験用粉塵を 1m³ あたり 2kg の割合で浮遊させた中に 8 時間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。

★ 2. バッテリーパック、アンテナを正しく装着した状態で、水深 1m の静水 (常温の水道水) に静かに沈め、30 分間放置したのちに取り出して、無線機として機能することです。

★ 3.AMBE+2™ 方式を採用している機種に対応しています。

はじめに

防塵/防水性能について

バッテリーパック、アンテナを本製品に装着することで、IP57相当の防塵/防水性能があります。

次のような使いかたをすると、防塵/防水性能を維持できませんので、ご注意ください。

- 水深1m以上、または30分以上水中に放置したとき
- 雨の中や水滴が付着したまま、またはぬれた手でバッテリーパックやアンテナ、防水形スピーカーマイクを付けたり、はずしたりしたとき
- 海水や砂、泥、洗浄液(洗剤)等が無線機に付着したまま放置したとき
- 落下等外的衝撃により、樹脂変形、ひずみ、ひび割れ等が発生した場合や薬品の付着により筐体、ゴムパッキンに劣化が生じたとき
- 長時間、高い水圧をかけたとき
- 蛇口からの水や湯を直接当てたとき
- 「別売品の防水性能について」に記載する別売品以外を使用したとき
- 無線機本体とバッテリーパック端子間の腐食による故障、または損傷
- 使用温度範囲外で使用したとき
- 薬品等の蒸気が発散しているところや薬品に触れるところに放置したとき
- 本製品を分解または改造したとき
- 無線機本体とバッテリーパック、アンテナ、別売品を接続するコネクター間に微細なゴミ(糸くず、毛髪、砂など)が挟まっているとき

別売品の防水性能について

バッテリーパック(BP-220N/BP-246/BP-274)、アンテナ(FA-S04U)、防水形スピーカーマイク(HM-172/HM-183SJ)を無線機本体に装着することで、IPX7相当の防水性能になります。

※ 接話タイピン型マイクロホン(HM-163)は、IPX7相当の性能がありますが、マイクロホン部は防水構造ではありません。

※ VOXユニット(VS-2SJ)は、本製品と接続する場合でも、IPX4相当の防水性能になります。

※ 上記以外の別売品(☞9章)については、防水構造になっていませんので、ご注意ください。

電波法上のご注意

◎ 無線局の運用に当たっては、1局当たり年間450円(包括登録申請)/500円(登録申請)の電波利用料を納付する必要があります。(納入告知書により、納付期限内に納付)

◎ 登録局の有効期限は、登録日から数えて5年間です。
再登録の申請は、免許の切れる3ヵ月前から1ヵ月前のあいだに手続きをしてください。

電波法上のご注意(つづき)

◎本製品は電波法に基づいて、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
ご自分で分解や改造をしないでください。

◎本製品は、アンテナを含めて技術基準適合証明(工事設計認証)を受けた製品です。
そのため、ご使用いただけるアンテナは、技術基準適合証明(工事設計認証)を受けたものに限定されます。
同梱の「IC-DPR5用アンテナについて」を参考にしてください。
技術基準適合証明(工事設計認証)を受けていないアンテナを使用すると、電波法違反で罰せられる場合がありますので、ご注意ください。

◎他局の通信妨害や、通話の内容をほかにもらし、これを窃用することは、かたく禁じられています。

◎本製品は、日本国内における陸上で運用する無線機です。
上空、および海上での運用はできませんのでご注意ください。
上空及び海上で運用されますと、無線局登録状の範囲を超えた運用となり、1年以下の懲役又は100万円以下の罰金に処せられることとなります。

取り扱い上のご注意

◎アンテナを持って製品を持ち運んだり、振り回したりしないでください。

◎本製品を極端に寒い場所から持ち運んだ場合は、結露する可能性があります。
結露した場合は、自然乾燥させるか、長いあいだ同じ環境に置くなどして、結露がなくなってからご使用ください。

◎雨の中や、水滴が付着したまま、またはぬれた手でバッテリーパックや防水形スピーカーマイク、アンテナを付けたり、はずしたりしないでください。

◎水や湯を水道の蛇口から直接当てないでください。

◎無線機本体やバッテリーパックと充電器の各端子(充電端子および電源ジャック)、アルカリ電池ケースの電池端子にゴミやホコリが付着すると、正常に使用できないことがありますので、定期的にお手入れをしてください。

◎磁気カードを無線機に近づけないでください。
磁気カードの内容が消去されることがあります。

◎バッテリーパックをお買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してください。

◎本製品の故障、誤動作、不具合、停電などの外部要因により通信、通話などの機会を失ったために生じる損害や逸失利益、または第三者からのいかなる請求についても当社は一切その責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

はじめに

自動車運転時のご注意

◎ 安全運転のため、運転中に無線機を操作したり、無線機の表示部を注視(表示部を見つづける行為)したりしないでください。
無線機を操作、または表示部を注視する場合は、必ず安全な場所に自動車を停車させてください。
◎ 安全運転に必要な外部の音が聞こえない状態で自動車を運転しないでください。
一部の都道府県では、運転中にイヤホンやヘッドホンなどを使用することが規制されています。
◎ 本製品をハイブリッドカーでご使用になる場合、ハイブリッドカーに搭載されているインバーターからのノイズの影響を受けて、正常に受信できないことがあります。
◎ 安全運転のため、無線機を身体に付けた状態で運転しないでください。

海水が付着したときは？

海水が無線機に付着したときは、真水で洗い流してください。
このとき、バッテリーパックは、無線機本体から絶対にはずさないでください。
洗い流したあとは、水分をふき取り、十分に乾燥させてからご使用ください。

個人情報の取り扱いについて

弊社が個人情報を利用する場合、事前に明確にした利用目的達成の必要範囲内で利用し、範囲を超えての利用はいたしません。
弊社の個人情報保護方針については、弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ をご覧ください。

ユーザー登録について

ユーザー登録は、バージョンアップ･サービスなどをご提供するときに必要になります。
付属の愛用者カードに必要事項をご記入いただき、必ず投函してください。
また、弊社ホームページから登録される場合は、インターネットから、http://www.icom.co.jp/ にアクセスいただき、ユーザー登録用フォーム(サポート情報→ユーザー登録)にしたがって必要事項を入力してください。

基本的な運用手順について

各手順の操作方法については、本書3章をご覧ください。

【通話チャンネルが決まっている場合】

①相手と同じ通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に合わせます。

②**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけ、**[PTT(送信)]**スイッチをはなします。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

①「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に合わせます。
※空いている通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)を事前に確認しておきます。

②**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

③通話チャンネルを通話相手に伝えて、**[PTT(送信)]**スイッチをはなします。

④通話相手に伝えた通話チャンネルに切り替えます。

【通話チャンネルに設定できる便利な機能】

◎通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)には、ユーザーコード★(☞P12)、および秘話キー★(☞P15)を設定できます。
★同じ設定の相手とだけ通話できます。

◎プライベートチャンネル機能(☞P25)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の切り替えに便利です。

◎プライベートチャンネルスキャン機能(☞P26)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)の通信を交互に受信(監視)できます。

もくじ

はじめに ―― i

安全上のご注意 ―― xi

1.ご使用の前に ―― 1

2.各部の名称と機能 ―― 5

3.はじめての通話 ―― 8

もくじ

9.別売品とその使いかた ―――――― 39

9.別売品とその使いかた(つづき)

安全上のご注意

**安全にお使いいただくために、
必ずお読みください。**

◎ **使用者および周囲の人への危害や財産への損害を未然に防ぎ、製品を安全に正しくお使いいただくために、守っていただきたい注意事項を示しています。**
◎ **次の『⚠危険』『⚠警告』『⚠注意』の内容をよく理解してから本文をお読みください。**
◎ **お読みになったあとは、いつでも読める場所へ大切に保管してください。**

⚠危険	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う危険が差し迫って生じることが想定される内容」を示しています。
⚠警告	これを無視して誤った取り扱いをすると「使用者および周囲の人が、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容」を示しています。
⚠注意	これを無視して誤った取り扱いをすると「人が傷害を負う可能性が想定される内容、および物的損害のみの発生が想定される内容」を示しています。

【免責事項について】
お客様または第三者が、取扱説明書記載の使用方法とは異なる使用方法で本製品を使用したことにより生じた故障、ならびに本製品の違法な使用により生じた故障につきましては、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。
本製品の使用により本製品以外に生じた損害につきましては、法令上の賠償責任が認められる場合を除き、当社は一切責任を負いませんので、あらかじめご了承ください。

■ 無線機本体について

⚠危険

引火性ガスの発生する場所では、絶対に使用しないでください。
引火、火災、爆発の原因になります。

⚠警告

◎ **民間航空機内、空港敷地内、新幹線車両内、これらの関連施設周辺では絶対に使用しないでください。**
交通の安全や無線局の運用などに支障をきたす原因になります。
運用が必要な場合は、使用する区域の管理者から許可が得られるまで電源を入れないでください。
◎ **電子機器の近く(特に医療機器のある病院内)では絶対に使用しないでください。**
電波障害により電子機器が誤動作、故障する原因になりますので、電源を切ってください。

安全上のご注意

⚠警告

◎ **アンテナやハンドストラップ、ショルダーストラップを持って本製品を振り回したり、投げたりしないでください。**
本人や他人に当たって、けがや故障、破損の原因になります。

◎ **大きな音量でヘッドホンやイヤホンなどを使用しないでください。**
大きな音を連続して聞くと、耳に障害を与える原因になります。

◎ **製品の分解や改造は、絶対にしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。**
火災、感電、故障の原因になります。

◎ **万一煙が出ている、変なにおいがするなどの異常がある場合は、使用しないでください。**
そのまま使用すると、火災、感電、故障の原因になります。
すぐに電源を切り、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

◎ **インバーター内蔵の電子機器やLED照明器具の周辺で使用しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎ **アンテナを折り曲げたり、ねじったりしないでください。**
変形や破損の原因になることがあります。

◎ **針金などの細い棒でマイクロホン部やスピーカー部の穴に触れないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎ **無線機をぐらついた台の上や傾いたところなど、不安定な場所に置かないでください。**
落ちたり、倒れたりして、火災、けが、故障の原因となることがあります。

◎ **直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所に置かないでください。**
変形、変色、火災、故障の原因になることがあります。

◎ **指定以外の別売品を使用しないでください。**
故障の原因になることがあります。

◎ **テレビやラジオの近くで送信しないでください。**
電波障害を与えたり、受けたりする原因になることがあります。

◎ **−10℃〜+60℃★以外の環境では使用しないでください。**
★BP-220N/BP-274（別売品）をご使用の場合は、−20℃〜+60℃
記載の温度範囲以外でのご使用は、故障の原因になることがあります。

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤（シンナー、ベンジンなど）を絶対に使用しないでください。**
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

安全上のご注意

■ バッテリーパックについて

⚠危険

◎ **火やストーブのそば、車内や炎天下など、高温になる場所での使用、充電、放置はしないでください。**
バッテリーパックの性能や寿命が低下、保護装置が動作して充電できなくなったり、保護装置が破損したりして、破裂、発煙、発火や火災、液もれ、やけどの原因になります。

◎ **火の中に投入したり、加熱したりしないでください。**
バッテリーパック内部のガスに引火して、破裂や火災などの原因になります。

◎ **コンクリートなどの堅い床に落としたりするなど、強い衝撃を与えたり、投げ付けたりしないでください。**
外観上、ひび割れや破損がない場合でも、内部で破損している場合があり、その状態で使用をつづけると、破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◆ **バッテリーパックをご使用の際に、異常と思われたときは、使用しないでお買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。**

◎ **下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱や発煙、液もれ、感電、やけどの原因になります。**

- バッテリーパックの端子にハンダ付けをしないでください。
- バッテリーパックの端子間を針金などの金属類で接続しないでください。
- ネックレスなどの金属類や導電性のあるものをバッテリーパックの上に放置したり、バッテリーパックといっしょに持ち運んだりしないでください。
- バッテリーパックは、単体で水や海水につけたり、ぬらしたりしないでください。
- 弊社指定の充電器での充電、および無線機の使用について厳しい検査をしていますので、弊社指定以外の無線機や充電器、およびそれ以外の用途には使用しないでください。
- バッテリーパックからもれ出した液が目に入ったときは、こすらないでください。
失明のおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流したあと、ただちに医師の治療を受けてください。
- バッテリーパックは、分解や改造をしないでください。

⚠警告

◎ **使用中や充電中、または保管中に、いつもより発熱するなど異常と感じたときは、使用を中止してください。**
使用をつづけると、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれ、故障の原因になります。

◎ **赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。**
感電やけがの原因になります。

◎ **電子レンジや高圧釜などに入れたり、電磁調理器の上に置いたりしないでください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ **指定の充電時間以上、充電しないでください。**
満充電後、すぐに再充電を繰り返すと、過充電になり、バッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎ **指定の充電時間を超えても充電を完了しないときは、ただちに充電を中止してください。**
破裂、発火や火災、発熱や発煙の原因になります。

◎ **バッテリーパックからもれ出した液が皮膚や衣服に付着したときは、放置しないでください。**
皮膚に障害を与えるおそれがありますので、すぐにきれいな水で洗い流してください。

◎ **テープを巻きつけたり、加工したりしないでください。**
バッテリーパック内部からガスが発生することがあり、破裂、発熱、液もれの原因になります。

◎ **バッテリーパックは、ぬれた状態で弊社指定の無線機や充電器に装着しないでください。**
無線機や充電器の電源端子接点部に水や海水が付着して、故障の原因になります。

⚠注意

◎ **下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。**

- バッテリーパックを満充電にした状態、または完全に使い切った状態で長期間放置しないでください。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、「残量あり」の状態を表示(☞P3)するまで使用して、無線機から取りはずした状態で保管してください。
- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
BC-152NJ(付属品:卓上充電器)　:0～45℃
BC-161 #02(別売品:卓上急速充電器):0～40℃
BC-121NA(別売品:6連急速充電器)　:10～40℃
- 以下の温度範囲以外の環境で使用しないでください。
BP-246(付属品)　:−10～+60℃
BP-220N/BP-274(別売品)　:−20～+60℃
- 寒い戸外や冷えたままで充電しないでください。
- 無線機を使用しないときは、必ず電源を切ってください。

安全上のご注意

■ バッテリーパックについて(つづき)

⚠注意

◎ **下記の事項を守らないと、破裂、発熱、液もれ、サビ、性能や寿命の低下の原因になることがあります。**
長期間使用しないときは、バッテリーパックを無線機から取りはずし、下記の温度範囲で湿気の少ない場所に保管してください。
約1ヵ月:−20～+40℃
約3ヵ月:−20～+35℃
約1年　:−20～+25℃

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
乾いたやわらかい布でふいてください。

■ 充電器について

⚠危険

◎ **下記の事項を守らないと、破裂、発火や火災、発熱、液もれ、感電、けが、故障の原因になります。**

- 充電器(付属品:BC-152NJ)とACアダプター(付属品:BC-122)は、本製品の充電以外に使用しないでください。
- 充電器(別売品:BC-161 #02/BC-121NA)には、弊社指定以外のACアダプターを使用しないでください。
- 弊社指定以外のバッテリーパックを充電しないでください。
BP-246(付属品)、BP-220N/BP-274(別売品)専用の充電器です。
- 分解や改造をしないでください。
また、ご自分で修理しないでください。

⚠警告

◎ **下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。**

- 赤ちゃんや小さなお子さまの手が届かない場所で使用、保管してください。
- BC-161 #02(別売品)を連結して充電できるのは、最大4台までです。
それ以上の台数を連結して充電しないでください。
- 充電器に水を入れたり、ぬらしたりしないでください。
また、水にぬれたときは、使用しないでください。
- ぬれた手で電源プラグや機器に絶対に触れないでください。

安全上のご注意

⚠警告

◎ **下記の事項を守らないと、火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。**

- 電源ケーブルや接続ケーブルの上に乗ったり、重いものを載せたりしないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルを加工したり、無理に曲げたり、ねじったり、引っ張ったり、加熱したりしないでください。
- 充電器の充電端子接点部に金属類を差し込まないでください。
- 電源ケーブルや接続ケーブルに傷がある、またはACコンセントの差し込みがゆるいときは、使用しないでください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなどの異常状態のまま使用しないでください。
  すぐにACコンセントから電源ケーブルを抜き、煙が出なくなるのを確認してからお買い上げ販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

⚠注意

◎ **直射日光の当たる場所やヒーター、クーラーの吹き出し口など、温度変化の激しい場所には設置しないでください。**
充電器の火災、故障、変形、変色、またはバッテリーパックの破裂、発熱、液もれの原因になることがあります。

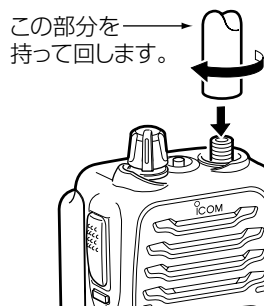
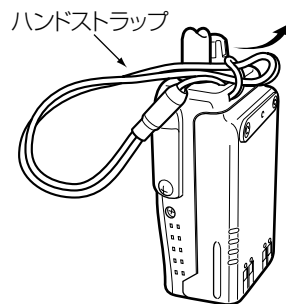
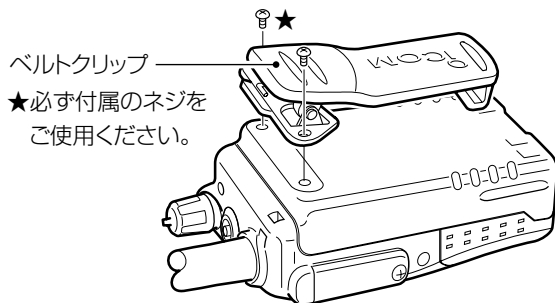
◎ **下記の事項を守らないと、火災、液もれ、発熱、感電、故障の原因になることがあります。**

- 以下の温度範囲以外の環境で充電しないでください。
  BC-152NJ(付属品:卓上充電器)　:0〜45℃
  BC-161 #02(別売品:卓上急速充電器):0〜40℃
  BC-121NA(別売品:6連急速充電器)　:10〜40℃
- 充電が完了したバッテリーパックを再充電しないでください。
- 湿気やホコリの多い場所、風通しの悪い場所に置かないでください。
- 電源ケーブルを抜き差しするときは、電源ケーブルを引っ張らないでください。
- 充電後や充電しないときは、ACコンセントから電源ケーブルを抜いてください。

◎ **清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。**
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。

1 ご使用の前に

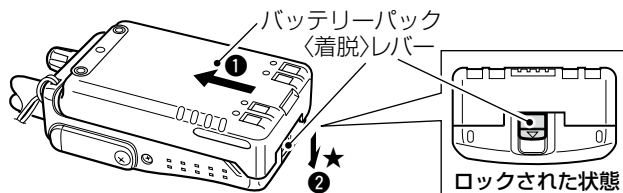
■ 付属品の取り付けかた

【アンテナ】

【ハンドストラップ】

【ベルトクリップ】

★ ネジの長さは、ベルトクリップの種類によって異なります。
取り付けに使用するネジは、ベルトクリップに付属する以外のものを絶対に使用しないでください。

【バッテリーパック】

バッテリーパックを本体に密着させながら、**「カチッ」**と音がするまで[❶]の方向にスライドさせます。なお、本製品には、バッテリーパックとの接点部に防水用パッキンを取り付けています。
そのため、バッテリーパックを取り付けるときには、**「カチッ」**と音が鳴ってから、さらに[❶]の方向に押し込んでください。

※ 取り付けたとき、バッテリーパックが無線機底面にある〈着脱〉レバーでロックされていることを確認します。

★ 取りはずすときは、〈着脱〉レバーを[❷]の方向に押し下げるとロックがはずれます。

⚠警告

本製品やバッテリーパックがぬれたり汚れたりした状態で、充電しないでください。

本製品やバッテリーパック、または充電器の各端子がサビるなどして、故障の原因になります。

⚠注意

次のことを守らないと、指や爪をいためるおそれがあります。

バッテリーパックを取りはずすとき、〈着脱〉レバーの操作は、バッテリーパックを[❶]の方向に軽く押し込んで、〈着脱〉レバーが軽く動く状態になってから、[❷]の方向に操作してください。

■ 充電時間と使用時間の目安

ご使用になるバッテリーパックや充電器によって、充電時間や使用できる時間が異なります。

名称／定格項目	BP-220N		BP-246		BP-274	
電池の種類	リ チ ウ ム イ オ ン					
電池の容量	2660mAh min (2800mAh typ.)		1850mAh min (1950mAh typ.)		1800mAh min (1900mAh typ.)	
出力電圧	7.4V					
寸法 (幅×高さ×奥行)	56×91×21.9		56×91×15.2		56×91×14.0	
	〈条件〉突起物は含まず/〈単位〉mm					
使用時間 パワーセーブ	ON	OFF	ON	OFF	ON	OFF
使用時間 送信出力 1W	約27時間	約19時間	約17時間	約12時間	約17時間	約12時間
使用時間 送信出力 5W	約18時間	約14時間	約11時間	約9時間	約11時間	約9時間
使用時間	〈条件〉送信5、受信5、待ち受け受信90の割合で繰り返し運用					
充電時間	約4時間		約2.5時間		約2.5時間	
充電時間	〈条件〉BC-161 #02、またはBC-121NAを使用時					
充電時間	約15時間		約9.5時間		約9.5時間	
充電時間	〈条件〉BC-152NJを使用時					

※ BP-246(バッテリーパック)とBC-152NJ(卓上充電器)が本製品に付属しています。
※ バッテリーパックを装着することで、無線機本体の防水性能に適合します。
※ 出荷時、パワーセーブ機能(☞P35)は、「OFF」に設定されています。
　個別呼び出し機能(☞6章)との併用は、できません。
※ バッテリーパックに異常があると思われたときは、使用を中止して、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

【アルカリ電池ケースをご使用の場合】　(別売品:BP-221)
市販のアルカリ電池をBP-221に入れて使用した場合の使用時間の目安です。
なお、BP-221の使用方法については、BP-221に付属の取扱説明書をご覧ください。

使用時間		ON	OFF
パワーセーブ		ON	OFF
送信出力	1W	約9時間	約5時間30分
送信出力	5W	約2時間	約1時間30分
〈条件〉送信5、受信5、待ち受け受信90の割合で繰り返し運用			

※ 出荷時、パワーセーブ機能(☞P35)は、「OFF」に設定されています。
　個別呼び出し機能(☞6章)との併用はできません。
※ 使用条件やアルカリ電池の種類(製造元など)により、使用時間が大きく異なることがあります。
　また、アルカリ電池の特性により、低温では使用時間が短くなります。

■ 電池の残量表示について

電池の残量が少なくなると、電池マークが点滅し、極端に少なくなると「電源 OFF」を点滅表示して、電源が切れます。

※交換時期になりましたら、バッテリーパックは充電し、アルカリ電池ケース(BP-221)の場合は、新しいアルカリ電池と交換してください。

【電池残量の意味】

■ 電池の残量警告音について

残量が[点滅]表示になると、残量警告音が**「ピーピーピー」**と、約30秒ごとに鳴ります。

警告音が鳴り出したら、すぐに充電してください。

※ [点滅]表示の状態で使用をつづけると、残量警告音が**「ピーピピピ･･･」**と鳴り、5秒後に無線機の電源が自動的に切れます。

【電池残量が極端に少ないとき】

■ 正しい充電のために

◎ バッテリーパックは、使い切らずに継ぎ足し充電ができますので、常に満充電にしてご使用ください。
なお、満充電した直後に再充電しないでください。

◎ 満充電、または完全に使い切った状態で長期間放置すると、バッテリーパックの寿命が短くなるおそれがあります。
長期間バッテリーパックを保管する場合は、満充電のあと、残量表示が「残量あり」の状態になるまで使用し、無線機からバッテリーパックを取りはずして保管してください。

◎ 極端に高温、または低温の環境下や、バッテリーパックと充電器の温度差が大きい場合、充電できないことがあります。
充電器は、次の環境でご使用ください。
BC-152NJ(付属品:卓上充電器)　:0～45℃
BC-161 #02(別売品:卓上急速充電器):0～40℃
BC-121NA(別売品:6連急速充電器)　:10～40℃

◎ バッテリーパックは消耗品ですから、充電を繰り返すと運用時時間が少しずつ短くなります。
運用時間が極端に短くなったときは寿命ですので、新しいバッテリーパック(別売品)をご購入ください。

◎ 充電口や充電端子各部にゴミやホコリが付着すると、正常に充電できないことがありますので、定期的に乾いたやわらかい布でふいてください。

■ 充電のしかた

お買い上げいただいたときや、2ヵ月以上充電しなかったときは、必ず充電してから、ご使用ください。

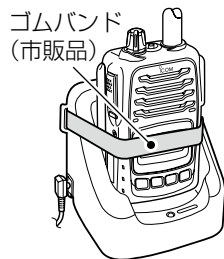
◎充電が完了した状態で放置していても、バッテリーパックの電圧が低下したときは、自動的に再充電を開始します。

◎ 充電中、充電ランプは橙色に点灯します。
充電が完了すると緑色に点灯します。

◎ ベルトクリップを無線機に付けた状態で充電できます。

※ LC-164/LC-166(別売品：ハードケースS/ハードケースL)を装着した状態では充電できません。

【充電器の使用例】

右図のように、市販のゴムバンドなどで固定すると、無線機が充電器からはずれるのを防止できます。

⚠危険

◎ 充電するときは、必ず本製品に付属、または「別売品一覧表」(☞P39)に記載の充電器をご使用ください。

◎ 指定(BP-220N/BP-246/BP-274)以外のバッテリーパックは、絶対に充電しないでください。

◎「安全上のご注意」(☞Pxi～Pxvi)を併せてお読みになり、安全な方法で充電してください。

無線機+バッテリーパック

バッテリーパック

必ず電源を切る

❸

❶ ～ ❸の順番で充電してください。

ガイド

ガイド

AC100V
コンセントへ

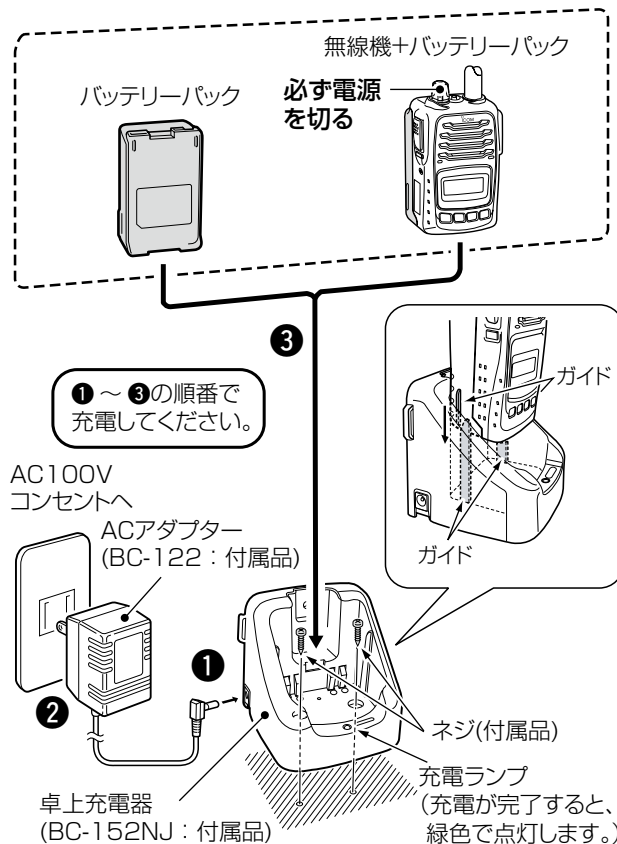
ACアダプター
(BC-122：付属品)

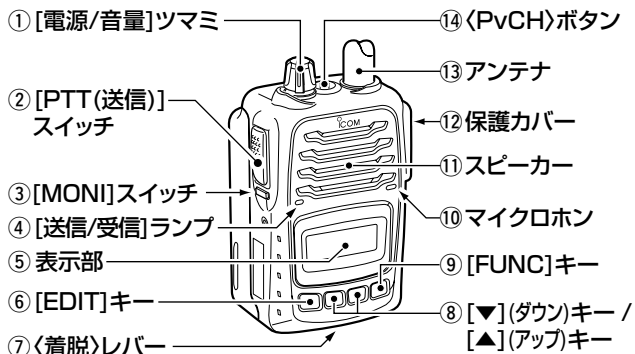
❶

❷

ネジ(付属品)

充電ランプ
(充電が完了すると、緑色で点灯します。)

卓上充電器
(BC-152NJ：付属品)

2 各部の名称と機能

■ 前面部

① [電源/音量]ツマミ
電源の「ON」/「OFF」と音量の調整をします。
※ 右に回すと音量が大きくなり、左に回すと小さくなります。

② [PTT(送信)]スイッチ
[PTT]スイッチを押すと「送信」状態、はなすと「受信」状態になります。
※ 電波法により、「連続送信(通話状態)」が5分を超えると、通話を自動的に切断します。(☞P11)

③ [MONI]スイッチ
押しているあいだモニター機能(☞P24)が動作します。
※ 音を聞きながら音量を調整するときや秘話機能(☞P15)を使用しない他局の通話を聞くときなどに使用します。

④ [送信/受信]ランプ
[PTT]スイッチを押しているあいだ(送信中)は赤色、電波を受信しているあいだは緑色に点灯します。

⑤ 表示部
無線機の使用状態(☞P7)を表示します。

⑥ [EDIT]キー
長く(約1秒)押すごとに、送信出力(5W〈High〉/1W〈Low〉)を切り替えます。(☞P24)
※ ユーザーコード(☞P13)、秘話キー(☞P16)の設定では、短く押すごとに、編集できる桁を切り替えます。
※「セットモード」や「詳細セットモード」(☞8章)のときは、短く押すごとに、設定項目を逆送りで切り替えます。

⑦〈着脱〉レバー
バッテリーパック、またはアルカリ電池ケース(別売品)の取り付けや取りはずしをします。(☞P1)

⑧ [▼](ダウン)キー/[▲](アップ)キー
通話チャンネル(☞P9、P21)、ユーザーコード(☞P13)、秘話機能(☞P16)、秘話キー(☞P16)、相手局番号(☞P22)の各表示項目の設定内容を切り替えます。
※「セットモード」や「詳細セットモード」(☞8章)のときは、押すごとに、各設定項目の設定内容を選択できます。

⑨ [FUNC]キー

短く押すごとに、各表示項目を「通話チャンネル」(☞P9、P21)→「ユーザーコード」(☞P12)→「秘話機能」(☞P15)の順に切り替えます。

長く(約1秒)押すごとに、ロック機能(☞P24)の「ON」/「OFF」を切り替えます。

※「セットモード」や「詳細セットモード」(☞8章)のときは、短く押すごとに、設定項目を順送りで切り替えます。

※ **[FUNC]**キーを短く押す操作は、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)を選択(☞P9)したときだけ無効になります。

⑩ マイクロホン

超小型のマイクロホンを内蔵しています。

※ 保護カバー(⑫)をはずして、スピーカーマイクやヘッドセットなどの別売品(☞9章)を接続したときは、動作しません。

※ HM-172(別売品:防水形スピーカーマイク)、またはVS-2SJ(別売品:VOXユニット)を接続する場合は、外部電源制御の設定(☞P31)が必要です。

⑪ スピーカー

超小型のスピーカーを内蔵しています。

スピーカーマイク(別売品)などを接続すると、動作しません。

⑫ 保護カバー

別売品のスピーカーマイクやヘッドセットなどを接続するコネクターを保護します。

保護カバー(☞P44)をはずすと、接続できます。

⑬ アンテナ

電波を発射、または受信する部分です。

本製品に付属のアンテナを接続(☞P1)します。

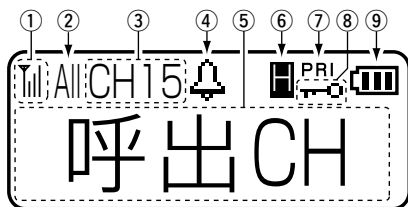
⑭〈PvCH〉ボタン

「ピピッ」と鳴るまで長く(約1秒)押すごとに、プライベートチャンネル表示と通話チャンネル表示を切り替えます。

プライベートチャンネルスキャン機能(☞P26)が設定されている場合、**「プッ」**と鳴るまで、さらに長く(約2秒)押すと、プライベートチャンネルスキャンを開始します。

※**[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを短く押すと、プライベートチャンネルスキャンを解除します。

※ 工場出荷時や全設定初期化時は、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。

■ 表示部

① 電波状態表示

受信している電波の強度を、右記の３段階(目安)で表示します。

※「Ｔ」は、電波が届いていないときでも表示されています。

② 個別呼び出し(All/〆)モード表示

個別呼び出し機能が設定(☞P32)されているとき表示します。

All：全局呼び出しとなる項目が表示されているとき

〆：相手からのグループ呼び出しを許可するグループ番号が表示されているとき

③ 操作状態の表示

通話チャンネル表示や音量表示以外の内容を選択したとき、通話チャンネルを③の部分に表示します。

※「セットモード」や「詳細セットモード」(☞8章)のときは、③の部分に「SET」、または「FUNC」などを表示します。
「FUNC」は、個別呼び出し機能が設定された状態で、**[FUNC]**キーを押したとき表示する項目を意味します。

④ 🔔(ベル)

通話相手から個別呼び出し(着信)を受けたとき点滅します。
ポケットビープ機能(☞P25)が設定されているときは、表示します。

⑤ [相手局番号/設定内容]表示

音量(0〜32)、通話チャンネル(☞P9、P21)、ユーザーコード(☞P12)、秘話キー(☞P16)、相手局番号(☞P22)、「セットモード」(☞P29)、「詳細セットモード」(☞P29)で選択した設定項目や設定内容などを表示します。

⑥ [H / L (5W/1W:送信出力)/ R (受信専用)]表示

各通話チャンネルの送信出力(High/Low)、または上空用チャンネル(受信専用)の設定状態を表示します。

H：5W(High)設定時に点灯
L：1W(Low)設定時に点灯
R：上空用チャンネル(S1〜S5)選択時に点灯

⑦ [PRI (プライベートチャンネルスキャン)]表示

プライベートチャンネルスキャン(☞P26)中に表示します。

⑧ [🔑 (ロック機能)]表示

ロック機能(☞P24)を設定したとき表示します。

⑨ [▮▮▮ (電池残量)]表示

電池残量を4段階で表示します。
※ 各段階の詳細な説明は、3ページをご覧ください。

相手と同じ通話チャンネルに合わせるだけの非常に簡単な通話のしかたについて説明しています。

〈使用例〉

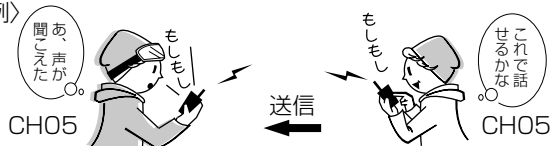
あ、声が聞こえた

もしもし

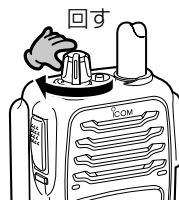
送信

もしもし

これで話せるかな

CH05　　CH05

1 電源を入れる

[電源/音量]ツマミを時計まわりに12時の位置まで回します。

- **「カチッ」**と音がして、ビープ音が**「ピー」**と鳴ります。
  表示部のバックライトが点灯(約5秒)します。

【電源を入れたときの表示】

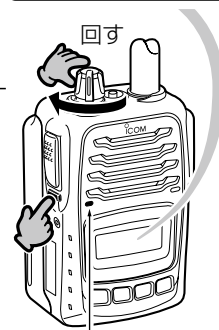
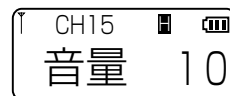
電源投入直後　　呼出用チャンネル表示★

★ 工場出荷時や全設定初期化時は、呼出用チャンネル(CH15)を表示します。(☞P9)
運用後は、前回選択した通話チャンネル(CH01〜CH14、CH16〜CH30)を表示します。

2 音量を調整する

[電源/音量]ツマミを右に回すと音量が大きくなります。
聞きやすい音量(例:10)に調整してください。

- 調整範囲:0〜32

モニター機能(☞P24)が設定されている場合、何も音が出ていない状態での調整は、**[MONI]**スイッチを押しているあいだ、**「ザー」**という音が出ますので、この音を聞いて調整します。

[MONI]スイッチを押しているあいだ、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯

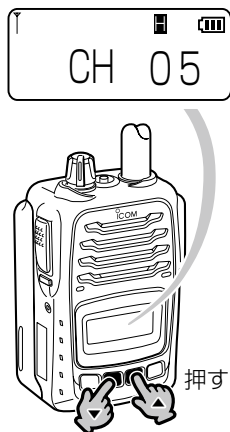
《ご注意》音量が最小のときは、操作音(ビープ音)や受信した音声は聞こえません。

3 通話チャンネルを合わせる

[▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に合わせます。

- 選択範囲:01〜14、16〜30

※ 通話チャンネルとは、通話に使用する周波数(☞P53)のことです。相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

※ [▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを押しつづけると連続動作し、「CH 01」になると、**「ピピッ」**と鳴って一時的に停止します。

【呼出用チャンネルについて】

呼出用チャンネル(CH15)は、「呼出CH」と表示します。

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、グループ通話(☞P12)や秘話機能(☞P15)を使用できません。

「呼出CH」で呼び出し後、通話をつづける場合は、空いている通話チャンネル(CH01〜CH14、CH16〜CH30)に切り替えてから通話してください。

呼出用チャンネル表示

4 [PTT(送信)]スイッチを押す

[PTT(送信)]スイッチを押しつづけると、ビープ音が**「ピッ」**となりますので、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。

【マイクロホンの使いかた】

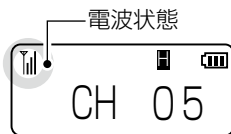
マイクロホンと口元を約5cmはなし、普通の大きさの声で通話してください。

マイクロホンに口を近づけすぎたり、大きな声を出したりすると、かえって相手に聞こえにくくなりますのでご注意ください。

相手の音声を受信する

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。

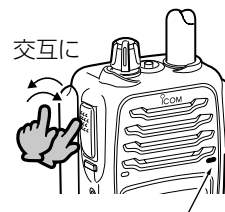
受信中は、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(☞P7)を表示します。

待ち受け状態のときは、**[送信/受信]**ランプが消灯しています。

受信中の表示例

通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで誰かが通話中)を受信しているときも、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

6 通話をつづける

送信と受信は交互にします。

※ 相手が送信しているときは、**[PTT(送信)]**スイッチを押しても混信防止機能(☞P11)が動作して、ビープ音が**「プップッ…」**と鳴りつづけ、送信できません。
相手の通話が終了してから、送信してください。

※ 送信の終わりに「どうぞ」を付け加えると、互いの会話がスムーズになります。

7 電源を切る

使用後は、**[電源/音量]**ツマミを反時計方向に**「カチッ」**と鳴るまで回します。

回す

- 電源を切る前の通話チャンネルを記憶して電源が切れます。

※ 電源を切る直前に、表示内容を変更してすぐ(2秒以内)に電源を切ると、電源を切る前の状態が記憶されません。
表示内容を変更後に電源を切るときは、2秒以上経過してから電源を切ってください。

■ 通話するときのアドバイス

1. 送信時間制限装置について

1回の送信で連続して通話できる時間は、**「5分以内」**と電波法で定められています。

制限時間の**10秒前**になると、ビープ音が**「ピッ」**と鳴ります。

連続通話時間が5分になると、警告音が**「ブッ」**と鳴って、自動的に送信を停止します。

※ 送信を自動停止すると、1分間は通話できません。
　通話を再開する場合は、1分後に**[PTT(送信)]**スイッチを押してください。

2. 混信防止(キャリアセンス)機能について

無線局の運用では、同じ通話チャンネルで自分が送信中のときにほかの人が送信すると混信を受け通話ができない場合があります。

また、逆にほかの人が通話中のチャンネルで送信すると、その通話を妨害することになります。

このような混信を防止するために、同じチャンネルで一定レベルの電波を受信している場合は、通話中とみなし送信できないように自動的に制御する機能をキャリアセンスといいます。

キャリアセンスの機能は、3秒以上通話が途切れた場合に動作します。

なお、ほかの電子機器からの電波を受信した場合(混信や妨害波を含む)についてもキャリアセンスが動作し送信できないことがありますが、故障ではありません。

本製品は、電波法によりこのキャリアセンスの搭載が義務付けられています。

3. 電波干渉について

比較的せまいエリアで、多くの局が通話するような状態では、電波の干渉(相互変調)による混信が発生することがあります。

このような混信は、グループごとに[通話チャンネル]の組み合わせを適切に設定することで防止できます。

4. 通話範囲について

周囲の状況(天候、山や建物などの障害物)により、受信しにくくなることがあります。

◇ 通話範囲は、周囲の建物などの状況により異なりますので、下記の数値を目安に通話してください。(送信出力:5W)
　見通しのよい場所:約4km
　市街地や建物内　:約0.5～1km

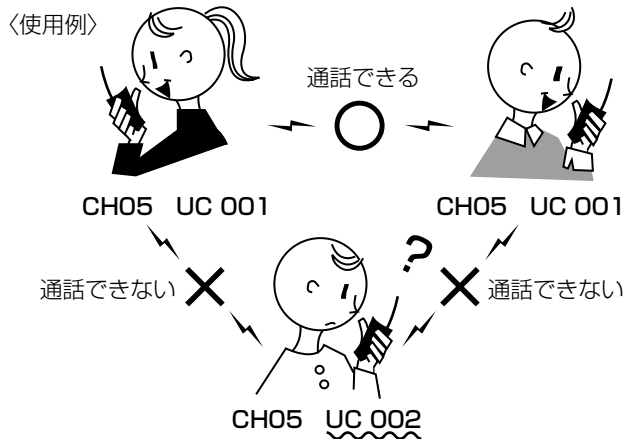
◇ 通話範囲であっても、山や建物などが障害物となって、通話しにくくなることがあります。
　そのときは、場所を少し移動して通話してください。
　また、テレビやラジオなどの家電製品、パソコン、および電話機などの近くで使用すると、雑音が発生したり、誤動作したりすることがありますので、はなれてご使用ください。

5. パワーセーブ機能について

何も操作しない(受信もしない)状態が10秒を超えると、自動的に本製品の動作を休止状態にし、電池の電流消費を抑えます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
　「詳細セットモード」(☞P29)から設定を変更できます。
　なお、個別呼び出し機能(☞P18)とは併用できません。

複数の通話相手と同じユーザーコード(UC)を設定するだけで、通話グループが簡単に構成できます。
通話チャンネル(☞P9)とユーザーコードの2つが一致したすべての相手と通話できます。

〈使用例〉

〈ご参考に〉
「詳細セットモード」(☞P29)で、通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定できます。(☞P31)
通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを設定する場合は、通話チャンネルを選択してから、右記の手順でユーザーコードを設定してください。

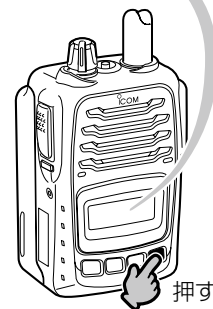
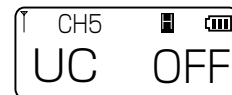
1 UC(ユーザーコード)表示にする

① **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)を選択(☞P9)します。
　※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)のときは、秘話機能を使用できないため、手順②の操作はできません。

② **[FUNC]** キーを繰り返し短く押して、「UC OFF」表示を選択します。
　● 「通話チャンネル(例:CH05)」→「UC OFF」→「秘話 OFF」の順に切り替わります。

※ 表示を切り替えて、何も操作しない状態(約10秒)にすると、通話チャンネル表示に戻ります。

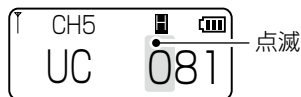
※ 「UC OFF」の場合、ユーザーコードを使用して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、その相手には聞こえません。

※ 秘話機能(☞5章)や個別呼び出し機能(☞6章)と併用できます。

2 ユーザーコードを設定する

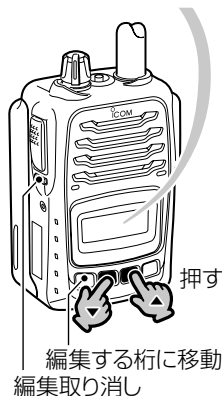
[▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

● 選択範囲:OFF(000)、001～511

【編集できる桁を変更するには】

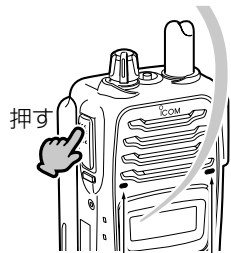
① [EDIT] キーを短く1回、または繰り返し短く押します。
- 編集できる桁が点滅します。

短く1回押したとき
(例:上位1桁目)

② [▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを繰り返し押して、ユーザーコードを選択します。
※ [MONI]スイッチを押すと、編集前の内容に戻ります。

③ 内容を確定するときは、[FUNC]キーを短く押す、または[EDIT]キーを繰り返し短く押します。
- 桁の点滅が点灯に変わります。
※約10秒後、通話チャンネル表示に切り替わります。

3 [PTT(送信)]スイッチを押す

[PTT(送信)]スイッチを押しつづけると、ビープ音が**「ピッ」**となりますので、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。

※ 設定したユーザーコードは、通話チャンネル(例:CH05)の右側に表示(例:001)されます。

相手の音声を受信する

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、自分と同じ通話チャンネルとユーザーコードで通話する相手局の音声を受信できます。

受信中は、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(☞P7)を表示します。
待ち受け状態のときは、**[送信/受信]**ランプが消灯しています。

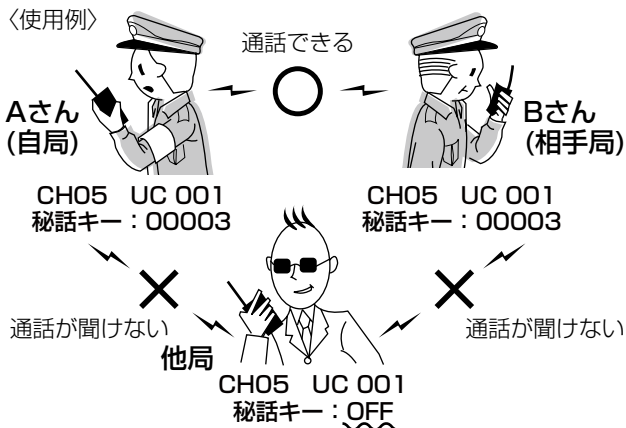
受信中の表示例

通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで、ユーザーコードが異なる誰かが通話中)を受信しているときも、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

4

5 盗聴防止の設定をするには

秘話機能が設定されていない本製品を使用しているほかの相手に、通話内容が盗聴されるのを防止できます。

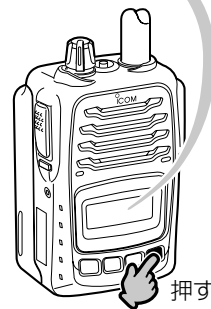
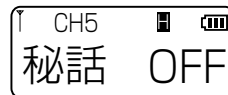
〈使用例〉

※ 上記の〈使用例〉で、秘話機能を使用する人(Aさん/Bさん)には、秘話機能を使用しない人(他局)の通話が聞こえます。

〈ご参考に〉
「詳細セットモード」(☞P29)で、通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)共通の秘話キーを使用するか、通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用するかを設定できます。(☞P31)
通話チャンネルごとに異なる秘話キーを設定する場合、通話チャンネルを選択してから、右記の手順で秘話キーを設定してください。

1 秘話表示にする

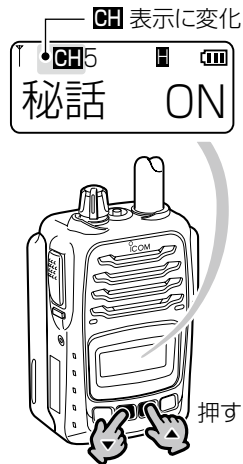
① **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)を選択(☞P9)します。
※「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)のときは、秘話機能を使用できないため、手順②の操作はできません。

② **[FUNC]** キーを繰り返し短く押して、「秘話 OFF」表示を選択します。
- 「通話チャンネル(例:CH05)」→「UC OFF」→「秘話 OFF」の順に切り替わります。

※ 表示を切り替えて、何も操作しない状態(約10秒)にすると、通話チャンネル表示に戻ります。
※ ユーザーコード(☞4章)や個別呼び出し機能(☞6章)と併用できます。

秘話機能をONにする

[▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを短く押して、「秘話 ON」表示に切り替えます。

- **「ピピッ」**と鳴って、「CH」表示になります。

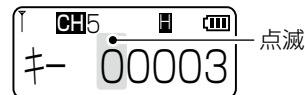
※「秘話 ON」の場合、「秘話 OFF」に設定して通話する相手の音声は聞こえますが、自分の音声は、その相手には聞こえ(盗聴され)ません。

《ご注意》
機密を要する重要な通話にご使用になることは、おすすめできません。
また、無線機間の通話は、電波を使用している関係上、第三者による盗聴を完全に阻止できませんので、ご注意ください。

3 秘話キーを設定する

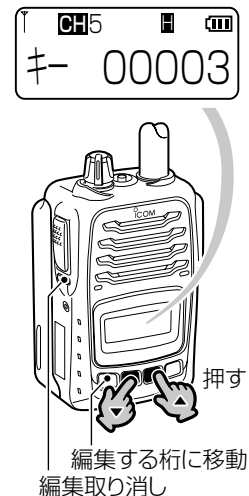
① **[EDIT]**キーを短く1回押します。
- 秘話キーを表示します。

② **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じ秘話キー(5桁)を設定します。
- 選択範囲:00001~32767

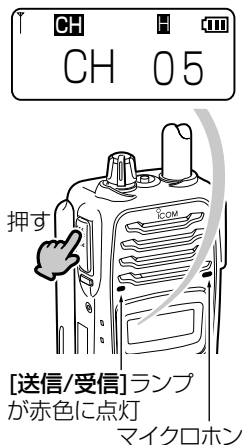
【編集できる桁を変更するには】

① **[EDIT]** キーを短く2回、または繰り返し短く押します。
- 編集できる桁が点滅します。

短く2回押したとき(例:上位1桁目)

② **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、秘話キーを選択します。
※ **[MONI]**スイッチを押すと、編集前の内容に戻ります。

③ 内容を確定するときは、**[FUNC]**キーを短く押す、または**[EDIT]**キーを繰り返し短く押します。
- 「秘話 ON」を表示します。
※約10秒後、通話チャンネル表示に切り替わります。

[PTT(送信)]スイッチを押す

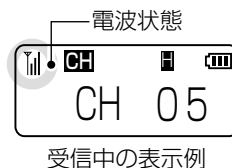
[PTT(送信)]スイッチを押しつづけると、ビープ音が**「ピッ」**となりますので、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。

- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。

5 相手の音声を受信する

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、自分と同じ秘話キーの相手局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。

受信中は、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、受信している電波状態(☞P7)を表示します。

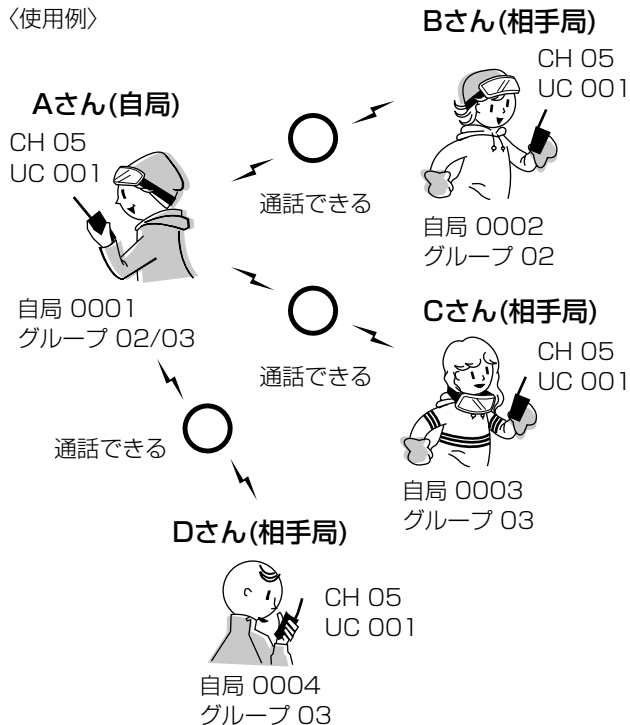
待ち受け状態のときは、**[送信/受信]**ランプが消灯しています。

受信中の表示例

通話相手以外の電波(同じ通話チャンネルで、秘話キーが異なる誰かが通話中)を受信しているときも、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯し、電波状態を表示します。

※ 他局が自分と異なる秘話キーを使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえます。

■ 呼び出しかたの種類について

個別呼び出し機能を使用した呼び出しかたの種類について、下図を例に説明します。

〈使用例〉

呼び出しかたには、次の3種類の方法があります。

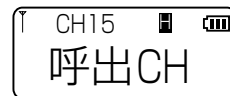
◎全局呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じ相手局(使用例:Bさん/Cさん/Dさん)を一斉に呼び出します。

◎個別呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、呼び出す相手局(使用例:Bさん)の自局番号(使用例:0002)を指定して呼び出します。

◎グループ呼び出し
通話チャンネル(使用例:CH 05)とユーザーコード(使用例:UC 001)が同じで、メンバー指定(☞P20)されたグループ番号(使用例:グループ 03)に所属するすべての相手(使用例:Cさん/Dさん)を呼び出します。

【「呼出CH」表示での機能制限について】

CH15は、呼出用チャンネル(☞P9)で、「呼出CH」と表示されます。

「呼出CH」表示のときは、ユーザーコード(☞P12)や秘話機能(☞P15)、個別呼び出し機能を使用できませんので、ご注意ください。

呼出用チャンネル表示

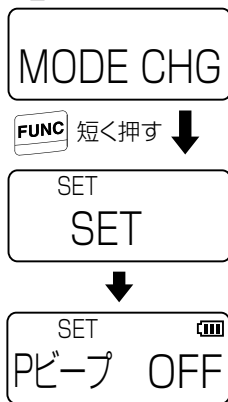
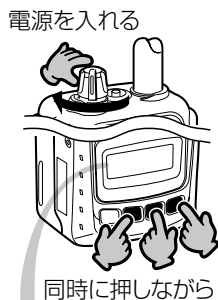
■ 個別呼び出し機能を設定するには

通話に使用するすべての無線機で設定が必要です。

1 詳細セットモードにする

① 本製品の電源を切ります。
② [▼](ダウン)キー/[▲](アップ)キーと[FUNC]キーを押しながら、電源を入れます。
- ビープ音が「**ピッ**」と鳴って、「**MODE CHG**」を表示します。

③「IC-DPR5」と表示される前に、[FUNC]キーを短く押します。
- ビープ音が「**ピピッ**」と鳴って、「**SET**」を表示したあと、[Pビープ]を表示すれば、「詳細セットモード」に移行しています。

※この章の説明で使用する設定値は、〈使用例〉(☞P18)に記載の値を使用しています。

2 個別呼び出し機能を設定する

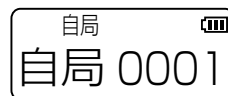
① [FUNC]キーを繰り返し短く押して、「個別 OFF」表示を選択します。(☞P32)
② [▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを押して、「ON」にします。

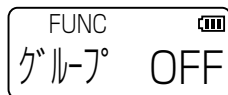
※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。
2 〜 5 の手順で記載する設定値は、〈使用例〉(☞P18)に記載の値を使用して説明しています。

3 自局番号を設定する

自局番号とは、自分が個別呼び出しを受けるための番号です。

① [FUNC]キーを繰り返し短く押して、「自局 0001」表示を選択します。(☞P32)

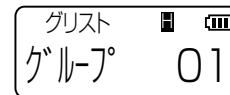
② [▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを押して、自局番号を設定します。
〈設定例〉
個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例:Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。
Aさん(自局) :0001 Bさん(相手局):0002
Cさん(相手局):0003 Dさん(相手局):0004

グループ番号表示を設定する

① **[FUNC]** キーを繰り返し短く押して、「グループ OFF」表示を選択します。(☞P33)

② **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押して、「グループ ON」表示にします。

※ 個別呼び出し機能で使用するすべての無線機(使用例：Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)に設定してください。

5 グループ呼び出しのメンバー指定

ここで指定したグループ番号の相手から呼び出しがあったとき、着信を許可するグループ番号を指定します。

① **[FUNC]** キーを繰り返し短く押して、「グループ 01」表示を選択します。(☞P33)

② **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押して、指定するグループ番号を選択します。

③ 選択したグループ番号(例：グループ 02)を表示した状態で、**[MONI]**スイッチを押します。

メンバー指定の状態

● メンバー指定を意味する ✕ を表示します。

※ 複数のグループからの呼び出しを受けるときは、②と③の操作を繰り返します。

〈メンバー指定するグループ番号の例〉

グループ呼び出しで使用するすべての無線機(使用例：Aさん/Bさん/Cさん/Dさん)にメンバー指定してください。

Aさん(自局)　：グループ02/グループ03
Bさん(相手局)：グループ02
Cさん(相手局)：グループ03
Dさん(相手局)：グループ03

■ 個別呼び出し機能を設定するには(つづき)

設定値を確定する

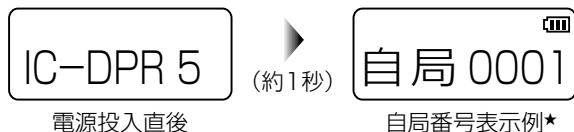
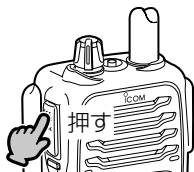
1 ~ 5 の手順で変更した設定値を確定するために、[PTT(送信)]スイッチを押します。

● 「詳細セットモード」が解除され、設定した自局番号を表示(約1秒)します。

※ 設定値をすべて変更後に、[EDIT]キー、または[FUNC]キーを押し、電源を切った場合でも、設定値が確定できます。

※「詳細セットモード」を解除するまで通話できません。

【自局番号表示例】

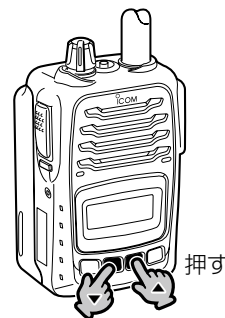
電源投入直後　　自局番号表示例★

★自局番号表示後に表示される内容は、電源を切る前の表示(通話チャンネル/相手局番号/グループ番号)によって異なります。

■ 個別呼び出し機能で通話するには

相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号を指定して相手局と通話する方法について、説明します。

※ 個別呼び出し機能がすべての無線機に設定(☞P18~P21)されているものとして説明しています。

1 通話チャンネルを合わせる

[▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に合わせます。

● 「All」(全局)を表示します。

〈全局呼び出し表示で、[PTT(送信)]スイッチを押すと〉

通話チャンネル(CH01~CH14、CH16~CH30)、ユーザーコード、秘話機能の設定が同じすべての相手を呼び出しできます。
あらかじめ、自局番号を通話相手に知らせるときなどに使用できます。

2 相手局番号を合わせる

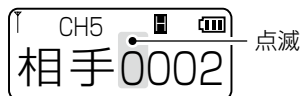
▶1局を呼び出すときは(個別呼び出し)

① [FUNC]キーを繰り返し短く押して、「相手局番号」(出荷時の設定:0001)表示を選択します。

② [▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを押して、相手の自局番号(例:0002)に合わせます。

【編集できる桁を変更するには】

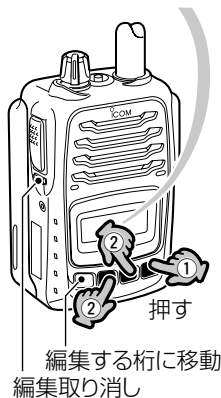
①「相手局番号」表示の状態で、[EDIT]キーを短く1回、または繰り返し短く押します。

● 編集できる桁が点滅します。

短く1回押したとき(例:上位1桁目)

② [▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを繰り返し押して、相手局番号を選択します。

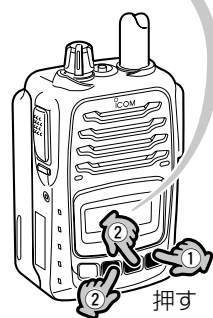
※ [MONI]スイッチを押すと、編集前の内容に戻ります。

③ 内容を確定するときは、[EDIT]キーを繰り返し短く押す、または[FUNC]キーを短く押します。

● 桁の点滅が点灯に変わります。

▶グループを呼び出すときは

① [FUNC]キーを繰り返し短く押して、「グループ番号(例:グループ01)」表示を選択します。

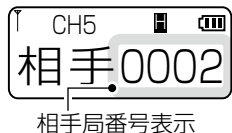
② [▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを押して、呼び出しをする相手のグループ番号(例:02)に合わせます。

※通話相手の無線機側でメンバー指定(メ)をしていないグループ番号(☞P33)と同じ番号を選択して呼び出しをしても、その相手には、自分の音声が聞こえません。
ただし、その相手から最初に呼び出しがあったときは、相手局番号とグループ番号を交互に点滅表示(☞P23)しますので、呼び出しを受ける前の表示に戻る(終話する)までに、[PTT(送信)]スイッチを押すと、応答できます。
終話するまでのあいだに、送信と受信を交互にする(☞P10)ことで、通話をつづけられます。

■ 個別呼び出し機能で通話するには(つづき)

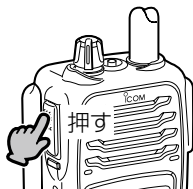
3 呼び出す

① 呼び出す前に、現在の表示内容を確認します。
表示内容によって、**3とおりの呼び出しかた**ができます。

◎ **全局呼び出しをする場合**
「通話チャンネル」表示
（例：CH 05）

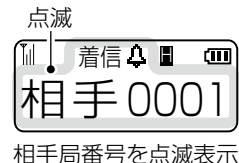
◎ **個別呼び出しをする場合**
「相手局番号」表示
（例：相手0002）

◎ **グループ呼び出しをする場合**
「グループ番号」表示
（例：グループ 02）

グループ番号表示

②**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。
● **[送信/受信]** ランプが赤色に点灯します。

4 呼び出しを受ける

呼び出しを受けたときは、下図の表示状態で**[PTT(送信)]**スイッチを押すと、応答できます。

◎**全局呼び出しを受けたとき**
相手局番号とALLを交互に点滅表示します。

◎**個別呼び出しを受けたとき**
相手局番号を点滅表示します。
ポケットビープ機能(☞P25)を設定しているときは、ビープ音(☞P30)が鳴ります。
※応答すると、「着信」→「通話」表示に変わります。

相手局番号を点滅表示

◎**グループ呼び出しを受けたとき**
相手局番号とグループ番号を交互に点滅表示します。

相手局番号を点滅表示　グループ番号を点滅表示

■ ロック機能

電源を入れなおしたり、不用意に無線機のキーやボタンに触れたりしても、設定や表示が変わらないようにします。

【操作のしかた】

[FUNC]キーをビープ音が**「ピピッ」**と鳴るまで長く(約1秒)押します。

● を表示します。

※ 同じ操作をすると、解除できます。

ロック表示

長く押す

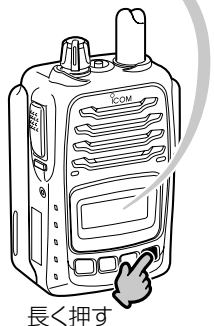
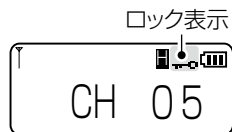
〈ロック中にできる操作〉

◎ ロック機能の解除

◎ **[PTT(送信)]**スイッチ

◎ **[MONI]**スイッチ

◎ **[電源/音量]** ツマミ(電源のON/OFFと音量調整★)

★「詳細セットモード」から音量調整のロック(☞P35)をするように設定できます。

■ モニター機能

[MONI]スイッチを押しているあいだ、有効になります。
モニター機能は、次のような場合に使用します。

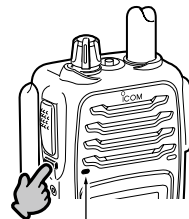
◎ 受信音がない状態で、**「ザー」**という音を聞きながら音量を調整するとき

◎ ユーザーコード、相手局番号、グループ番号が異なる他局の通話を聞くとき

※ 他局が秘話機能を使用している場合は、秘話処理された電子音が聞こえるだけです。

◎ プライベートチャンネルスキャン(☞P26)中、スキャンを一時的に停止して、電波の有無を確認するとき

[MONI]スイッチを押しているあいだ、**[送信/受信]**ランプが緑色に点灯

※「詳細セットモード」の設定によって、**[MONI]**スイッチの動作(☞P35)を変更できます。

■ 送信出力の切り替え

[EDIT]キーを長く(約1秒)押すごとに、送信出力の「5W(High)」/「1W(Low)」を切り替えできます。

◎ 5W(High)は「H」、1W(Low)は「L」を表示します。

◎ 通話相手との距離が近いときは、1Wで使用すると、消費電力を節約できます。

送信出力表示

※ 上空用チャンネル(☞Pi、P38)表示(S1〜S5)のときは、「R」が点灯し、送信出力の切り替えはできません。

■ ポケットビープ機能

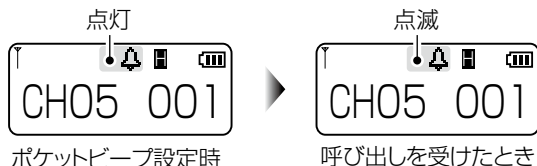
下記の呼び出しを受けたとき、有効になる機能です。

このときに鳴るビープ音は、いずれかのキーやスイッチの操作で、停止できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。「詳細セットモード」から設定(☞P30)を変更できます。

【ユーザーコードによる呼び出しを受けたとき】

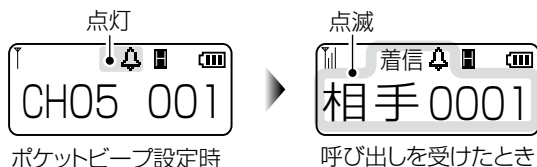
🔔の点滅とビープ音でお知らせします。

ポケットビープ設定時　　呼び出しを受けたとき

【個別呼び出しによる呼び出しを受けたとき】

ビープ音でお知らせします。

※ユーザーコードと併用したときも同じです。

※ ポケットビープ機能が設定されていない状態で呼び出しを受けたときは、🔔**の点滅だけになります。**

ポケットビープ設定時　　呼び出しを受けたとき

■ プライベートチャンネル機能

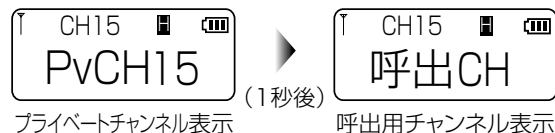
特定の通話チャンネル(例:呼出CH)をプライベートチャンネルに設定することで、よく利用する通話チャンネル(例:CH 01)との切り替えを容易にできます。

【操作のしかた】

〈**PvCH**〉ボタンをビープ音が**「ピピッ」**と鳴るまで長く(約1秒)押します。

● 下記の表示に切り替わります。

プライベートチャンネル表示

(1秒後)

呼出用チャンネル表示

※ プライベートチャンネルに設定した通話チャンネルを選択しているときは、〈**PvCH**〉ボタンの操作は無効です。

※ 工場出荷時や全設定初期化時は、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)がプライベートチャンネルに設定されています。「詳細セットモード」から設定(☞P36)を変更できます。

※ 下記は、通話チャンネル(例:CH 05)をプライベートチャンネルに設定したときの表示です。

プライベートチャンネル表示　(1秒後)　通話チャンネル表示

【切り替える前の通話チャンネルに戻すには】

[▼](ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押します。

■ プライベートチャンネルスキャン機能

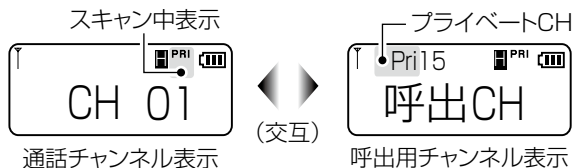
よく利用する通話チャンネル(例:CH 01)を受信しながら、プライベートチャンネルに設定した通話チャンネル(例:呼出CH)を一定の時間ごとに受信(監視)できます。

【操作のしかた】

〈PvCH〉ボタンをビープ音が**「プッ」**と鳴るまで長く(約3秒)押します。

● プライベートチャンネルスキャンを開始します。

※ 押しつづけると、最初に**「ピピッ」**と鳴りますが、**「プッ」**と鳴るまで、**〈PvCH〉**ボタンを押してください。

※ 「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)をプライベートチャンネルに設定したときは、下記のように切り替わります。

※ プライベートチャンネルに設定した通話チャンネルを選択しているときは、**〈PvCH〉**ボタンの操作は無効です。

※ **[MONI]**スイッチ、または**[電源/音量]**ツマミ以外の操作で、プライベートチャンネルスキャンを解除できます。

※ 工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。「詳細セットモード」から設定(☞P36)を変更できます。

【スキャン動作について】

◎ 通話チャンネル(例:CH 01)で待ち受け中は、2秒ごとにプライベートチャンネル(例:呼出CH)をスキャンします。

◎ プライベートチャンネルに電波がないときは、すぐに通話チャンネル(例:CH 01)に戻ります。

◎通話チャンネル(例:CH 01)で電波を受信中は、5秒ごとにプライベートチャンネル(例:呼出CH)をスキャンします。

◎プライベートチャンネル(例:呼出CH)で電波を受信中は、「詳細セットモード」のスキャン停止時間(☞P37)とスキャン再開時間(☞P37)の設定にしたがってスキャンします。

※スキャン停止時間とスキャン再開時間の設定は、プライベートチャンネルで電波を受信したとき有効です。

◎下記の場合は、**[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーでスキャンを再開できます。

● 「詳細セットモード」のスキャン再開時間(☞P37)を「シナイ」に設定したとき

● 個別呼び出し機能(☞P18)で使用時、自局番号で個別呼び出しを受けたとき

◎上空用チャンネル(S1〜S5)が設定(☞P38)されている場合は、上空用チャンネルをスキャンの対象にできます。

◎待ち受け中に呼び出しをする場合は、通話チャンネル(例:CH 01)で送信します。

7

■ 着信履歴機能

個別呼び出し、およびグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号(相手の自局番号)やグループ番号が記憶されます。
着信履歴機能を有効にすることで、記憶された相手局の番号を利用して呼び出しできます。

【着信履歴の確認と呼び出しについて】

①右図のように、「着歴1」と表示されるまで、**[FUNC]**キーを繰り返し短く押します。

②着信履歴が2件以上の場合は、「着歴1」表示の状態で、**[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押すと、確認できます。

※「着歴1」から順に最新の履歴となるように記憶します。

③呼び出す相手の番号を表示した状態で、**[PTT(送信)]**スイッチを押しながら、相手に呼びかけます。

● **[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。

【着信履歴の内容や件数に異常があると思われたときは】

「セットモード」の着信履歴消去(☞P34)から履歴を消去してください。
それでも改善しない場合は、全設定初期化(☞P38)してください。

【着信履歴を利用するには】

工場出荷時や全設定初期化時の状態では、使用できません。
着信履歴を利用する場合は、「詳細セットモード」から設定(☞P34)を変更してください。
着信履歴の消去は、「セットモード」からできます。(☞P34)
※最大10件の着信履歴を記憶できます。
　10件を超えると、古い着信履歴から削除されます。
※全局呼び出しの場合は、着信履歴を記憶しません。

■ 設定項目一覧

「セットモード」、または「詳細セットモード」から、本製品の各機能を変更する方法について説明します。
各機能は、運用状況に応じて、以下の参照ページからお好みの設定に変更できます。

□ 欄は、セットモードでも変更できる設定項目です。

機能名称	名称表示	初期値	参照
ポケットビープ	Pビープ	OFF	P30
秘話	秘話	CH共	P31
マイクゲイン	マイクG	MID	P31
外部電源制御	EXVC	GND	P31
ユーザーコード	UC	CH共	P31
個別呼び出し	個別	OFF	P32
自局番号設定★1.	自局	0001	P32
相手局番号表示★1.	相手	ON	P33
グループ番号表示★1.	グループ(FUNC)	OFF	P33
メンバー指定★2.	グループ(グリスト)	未指定	P33
着信履歴★1.	着歴	OFF	P34
終話後表示★1.	終表	話前	P34
着信履歴消去★1.	履歴	―――	P34

★1.個別呼び出しの設定が「ON」のとき、設定できる機能です。
★2.グループ番号表示が「ON」のとき、設定できる機能です。

機能名称	名称表示	初期値	参照
[MONI]スイッチの動作	MONI	PUSH	P35
音量調整のロック	VOL	可変	P35
パワーセーブ	PWSV	OFF	P35
プライベートチャンネル	PvCH	ON	P35
プライベートチャンネルの設定★3.	CH	呼出	P36
スキャン★3.	Scn	OFF	P36
スキャン停止時間★4.	停止	10S	P37
スキャン再開時間★4.	再開	5S	P37
通話後スキャン動作★4.	話後	解除	P38
上空用チャンネル	SkyR	OFF	P38
全設定初期化	リセット	NO	P38

★3.プライベートチャンネルの設定が「ON」のとき、設定できる機能です。
★4.スキャンの設定が「PScn」のとき、設定できる機能です。

■「セットモード」に移行するには

マイクゲインの設定と着信履歴の消去に使用します。

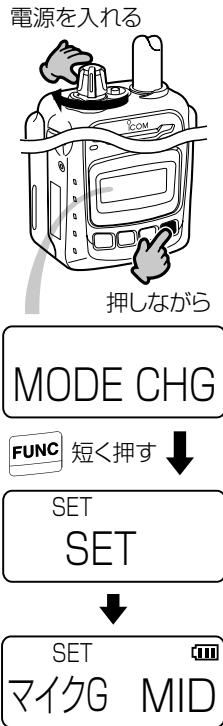
【操作のしかた】

① 本製品の電源を切ります。

② [FUNC]キーを押しながら、電源を入れます。

- ビープ音が「**ピッ**」と鳴って、「MODE CHG」を表示します。

③「IC-DPR5」と表示される前に、[FUNC]キーを短く押します。

- ビープ音が「**ピピッ**」と鳴って、「SET」を表示したあと、[マイクG]を表示すれば、「セットモード」に移行しています。

■「詳細セットモード」に移行するには

すべての機能(☞P28)が変更できます。

【操作のしかた】

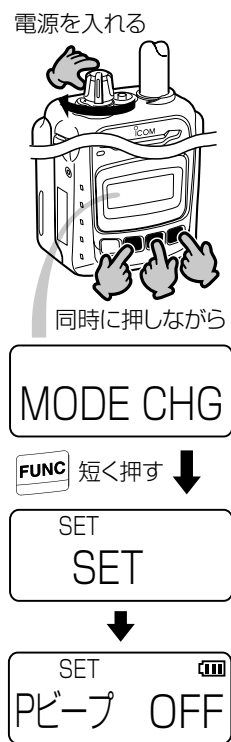
① 本製品の電源を切ります。

② [▼](ダウン)キー/[▲](アップ)キーと[FUNC]キーを押しながら、電源を入れます。

- ビープ音が「**ピッ**」と鳴って、「MODE CHG」を表示します。

③「IC-DPR5」と表示される前に、[FUNC]キーを短く押します。

- ビープ音が「**ピピッ**」と鳴って、「SET」を表示したあと、[Pビープ]を表示すれば、「詳細セットモード」に移行しています。

MODE CHG

■ 設定のしかた

「セットモード」、または「詳細セットモード」に移行(☞P29)後、下記の手順で各機能の設定を変更できます。

【操作のしかた】

① **[FUNC]**キー、または**[EDIT]**キーを繰り返し短く押します。
  ※個別呼び出し機能が「OFF」のときは、設定できる機能が1つだけのため、切り替わりません。

② 目的の機能名称で、**[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押します。
  ● 設定値が切り替わります。
  ※ほかの機能も変更するときは、①と②の操作を繰り返します。

③ **[PTT(送信)]**スイッチを押します。
  ● 選択した設定値を確定し、「セットモード」、または「詳細セットモード」が解除されます。
  ※設定値を変更後に、**[EDIT]**キー、または**[FUNC]**キーを押し、電源を切った場合でも、設定値が確定できます。
  ※「セットモード」、または「詳細セットモード」を解除するまで通話できません。

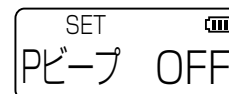
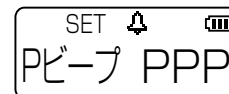
設定値の変更

設定値の確定

■ 設定項目について

◇ ポケットビープ (初期設定値:OFF)

ユーザーコードによる呼び出し、または個別呼び出し機能による個別呼び出しを受けたとき、呼び出し音のパターンを設定します。

SET
Pビープ OFF

● OFF :ポケットビープを使用しない
● 30F :「トルルル」と音が30回連続で鳴る
● 3F :「トルルル」と音が3回連続で鳴る
● MIN :「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、1分ごとに1回鳴る
● CON:「トルルル」と音が3回連続で鳴ったあと、2秒ごとに1回鳴る
● PIー:「ピー」と音が1回鳴る
● PPP:「ピピピ」と音が1回鳴る

※ グループ、または全局呼び出しを受けたときは、ポケットビープを「OFF」以外に設定されていても鳴りません。

■ 設定項目について(つづき)

◇ 秘話 (初期設定値:CH共)

通話チャンネル共通の秘話キーを使用するか、通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用するかを設定します。

- CH共:通話チャンネル共通の秘話キーを使用する
- CH毎:通話チャンネルごとに異なる秘話キーを使用する

◇ マイクゲイン (初期設定値:MID)

マイクロホンの感度を設定します。

- MID :中
- HI :高
- LOW :低

※ 周囲の騒音が大きい場所では、「LOW」に設定し、大きめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。
また、周囲の雑音が小さい場所では、「HI」に設定し、小さめの声で通話することで、通話相手に聞きやすい音声になります。

※セットモードでも変更できる項目です。

◇ 外部電源制御 (初期設定値:GND)

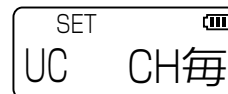
HM-172(別売品:防水形スピーカーマイク)、またはVS-2SJ(別売品:VOXユニット)を接続する場合は、「5V」に設定してください。

- GND :接続しない
- 5V :接続する

※ HM-172、VS-2SJを接続するとき以外は、安全のため、初期設定値でご使用ください。

◇ ユーザーコード (初期設定値:CH共)

通話チャンネル共通のユーザーコードを使用するか、通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用するかを設定します。

- CH共:通話チャンネル共通のユーザーコードを使用する
- CH毎:通話チャンネルごとに異なるユーザーコードを使用する

◇ 個別呼び出し　（初期設定値：OFF）

同じ通話チャンネルを使用する相手のうち、通話したい相手だけを呼び出す機能を設定します。

- OFF ：使用しない
- ON ：使用する

※ パワーセーブ機能と併用できないため、「ON」に設定すると、「PWSV」の設定(☞P35)は、自動的に「OFF」されます。

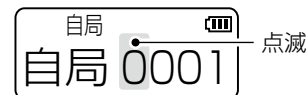
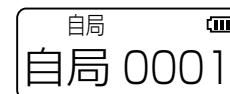
◇ 個別呼び出し(つづき)

◇◇ 自局番号設定　（初期設定値：0001）

「個別」（個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示され、この項目で設定する自局番号で個別呼び出しを受けると着信します。

- 選択範囲：0001～9999

【編集できる桁を変更するには】

①**[EDIT]**キーを長く（約1秒）押します。
- 上位1桁目が点滅します。

②上位2桁目以降は、**[EDIT]**キーを繰り返し短く押します。

③編集が完了したら、**[FUNC]**キーを短く押します。
- 桁の点滅が点灯に変わります。

■ 設定項目について(つづき)

◇ 個別呼び出し(つづき)

◇◇ 相手局番号表示 （初期設定値：ON）

「個別」（個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示され、**[FUNC]**キーを繰り返し短く押したとき、相手局番号（相手の自局番号）を選択する項目の表示について設定します。

- ●ON ：表示する
- ●OFF：表示しない

◇◇ グループ番号表示 （初期設定値：OFF）

「個別」（個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示され、**[FUNC]**キーを繰り返し短く押したとき、グループ呼び出しをする相手のグループ番号を選択する項目の表示について設定します。

- ●OFF：表示しない
- ●ON ：表示する

◇◇ グループ番号表示（つづき）

◇◇◇ メンバー指定 （初期設定値：メンバー指定なし）

「個別」（個別呼び出し）と「グループ」（グループ番号表示）を「ON」に設定したとき、表示されます。

この項目でメンバー指定（〆 点灯）したグループ番号（01～10）でグループ呼び出しを受けると着信します。

- ● 〆 点灯：指定する
- ● 〆 消灯：指定しない

※設定は、**[MONI]**スイッチを押すごとに、切り替わります。

※複数のグループ番号をメンバーに指定できます。
　指定するグループ番号の選択は、[▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーを押します。

※メンバー指定をしていないグループ番号（〆 消灯）でグループ呼び出しを受けても、着信しません。

◇ 個別呼び出し(つづき)

◇◇ 着信履歴　　（初期設定値：OFF）

「個別」（個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示され、個別呼び出し、またはグループ呼び出しを受けたとき、相手局番号やグループ番号を着信履歴(☞P27)として表示する設定です。

●OFF：表示しない
●ON　：表示する
※着信履歴は、「着歴 OFF」のときも記憶されます。

※セットモードでも変更できる項目です。

◇◇ 終話後表示　　（初期設定値：話前）

「個別」（個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示され、通話を終了後、待ち受け状態になったときの表示内容を設定します。

●話前　：通話前の表示に戻る
●CH　：全局、またはグループ呼び出しを受けたときだけ、通話チャンネル表示に戻る
※個別呼び出しを受けた場合は、相手局番号を点滅表示します。(☞P23)

SET
終表話前

◇◇着信履歴消去　　（初期設定値：―――）

「個別」（個別呼び出し）を「ON」に設定したとき表示され、自局番号やグループ番号の変更により、着信履歴を個別呼び出しなどに利用できなくなった場合、その履歴を消去します。

●―――：**[PTT(送信)]**スイッチを押しても、消去されない
●CLR　：**[PTT(送信)]**スイッチを押すと、消去される

SET
履歴 ―――

※「CLR」を選択後、**[PTT(送信)]**スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「―――」に切り替わります。

■ 設定項目について(つづき)

◇ [MONI]スイッチの動作　（初期設定値：PUSH）

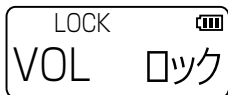
[MONI]スイッチの動作を設定します。

- ● PUSH ：押しているあいだだけモニター機能(☞P24)をONに切り替える
- ● CH ：押すと、表示を通話チャンネルに切り替える
- ● OFF ：[MONI]スイッチの動作を無効にする
- ● TGL ：押すごとに、モニター機能のON/OFFを切り替える

SET
MONI TGL

◇ 音量調整のロック　（初期設定値：可変）

ロック機能(☞P24)動作中の音量調整について設定します。

- ● 可変 ：音量を調整できる
- ● ロック ：ロック機能を設定する直前に調整された音量で固定します。
  ※ ロック機能動作中に音量を調整すると、ロック機能を解除したとき、その調整値を反映します。

◇ パワーセーブ　（初期設定値：OFF）

電池の電流消費を抑えるため、パワーセーブ機能(☞P11)を設定します。

- ● OFF ：使用しない
- ● ON ：使用する

※ 個別呼び出し機能と併用できないため、「ON」に設定すると、個別呼び出しの設定(☞P32)は、自動的に「OFF」されます。

◇ プライベートチャンネル　（初期設定値：ON）

プライベートチャンネル機能(☞P25)を設定します。

- ● ON ：使用する
- ● OFF ：使用しない

※ 「ON」に設定すると、〈PvCH〉ボタンによるプライベートチャンネルへの切り替え操作が有効になります。

◇ プライベートチャンネル(つづき)

◇◇ プライベートチャンネルの設定　（初期設定値:呼出）

「PvCH」(プライベートチャンネル)を「ON」に設定したとき表示され、通話チャンネル(01～30)、または上空用チャンネル(S1～S5)からプライベートチャンネルを設定します。

● 選択範囲:01～30、S1～S5

※ 上空用チャンネル(S1～S5)をプライベートチャンネルに設定する場合は、「SkyR」(上空用チャンネル)を「ON」に設定してください。

※ 上空用チャンネル(S1～S5)をプライベートチャンネルに設定した状態で、「SkyR」(上空用チャンネル)を「OFF」に設定すると、プライベートチャンネルは、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)に設定されます。

Pv/PScn
CH S5

◇◇ スキャン　(初期設定値:OFF)

「PvCH」(プライベートチャンネル)を「ON」に設定したとき表示され、プライベートチャンネルスキャン機能(☞P26)を設定します。

● OFF　:使用しない
● PScn:使用する

※「PScn」を設定すると、**〈PvCH〉**ボタンによるプライベートチャンネルスキャンの開始操作が有効になります。

■ 設定項目について(つづき)

◇ プライベートチャンネル(つづき)

◇◇ スキャン(つづき)

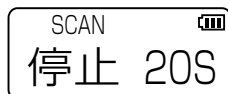
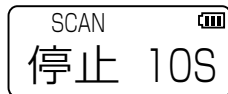
◇◇◇ スキャン停止時間 (初期設定値:10S)

「PvCH」(プライベートチャンネル)を「ON」、「Scn」(スキャン)を「PScn」に設定したとき表示されます。

プライベートチャンネルに設定した通話チャンネル(例:呼出CH)の電波を受信中、プライベートチャンネルスキャンを停止する時間を設定します。

● 選択範囲:2S ~20S (2S刻み)、保持

※電波を受信中に、スキャン停止時間(2S ~20S)が経過すると、スキャンを再開します。なお、スキャン停止時間(2S ~20S)が経過する前に電波が途切れたときは、スキャン再開時間の設定にしたがってスキャンを再開します。

※「保持」を設定したときは、待ち受け状態になるまで、スキャンを停止します。

◇◇◇ スキャン再開時間 (初期設定値:5S)

「PvCH」(プライベートチャンネル)を「ON」、「Scn」(スキャン)を「PScn」に設定したとき表示されます。

スキャン停止時間が経過する前に電波が途切れたとき、スキャンが再開するまでの時間を設定します。

● 即時 :すぐにスキャンを再開

● 1S ~5S :設定時間後にスキャンを再開

● シナイ :[▼](ダウン)キー、または[▲](アップ)キーの操作でスキャンを再開

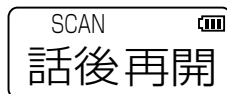
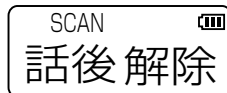
◇ プライベートチャンネル(つづき)

◇◇ スキャン(つづき)

◇◇◇ 通話後スキャン動作 （初期設定値:解除）

「PvCH」(プライベートチャンネル)を「ON」、「Scn」(スキャン)を「PScn」に設定したとき表示されます。

スキャン中、**[PTT(送信)]**スイッチを操作したときのスキャン動作を設定します。

- 解除 :スキャンを解除
- 再開 :数秒後、スキャンを再開

◇ 上空用チャンネル （初期設定値:OFF）

上空用チャンネル(S1〜S5)の使用を設定します。

- OFF :使用しない
- ON :使用する

※「ON」に設定すると、通話チャンネルから選択(☞P9、P21)できます。

※ 上空用チャンネルでは、送信できません。

◇ 全設定初期化 （初期設定値:NO）

すべての設定を工場出荷時の状態に戻す(リセット)ときの設定と操作です。

- NO :**[PTT(送信)]**スイッチを押しても、初期化しない
- YES :**[PTT(送信)]**スイッチを押すと、初期化する

※「YES」を選択後、**[PTT(送信)]**スイッチを押さない状態で、ほかの設定項目に移動したときは、初期化しないと認識され、「NO」に切り替わります。

【ご注意】

「全設定初期化(リセット)」は、バッテリーパックの残量表示が「十分」の状態(☞P3)で操作してください。(☞P51)

なお、設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

9 別売品とその使いかた

本製品を便利にお使いいただくため、下記の別売品をご用意しています。

【別売品についてのご注意】

弊社製別売品は、本製品の性能を十分に発揮できるように設計されていますので、必ず弊社指定の別売品をお使いください。弊社指定以外の別売品とのご使用が原因で生じる無線機の破損、故障あるいは動作や性能については、保証対象外とさせていただきますので、あらかじめご了承ください。

■ 別売品一覧表

[★]印のものは、無線機本体に装着することで、IP57相当の防水性能に適合します。

※ 弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ でも、別売品についてご覧いただけます。

無 線 機 を 保 護 す る

LC-154 :ハードケースL(BP-220N/BP-221用)
LC-164 :ハードケースS(BP-246/BP-274用)
※ 無線機に装着した状態で、キー操作と充電(BC-161 #02を使用時)ができます。
LC-166 :ハードケースL(BP-220N/BP-221用)
※ 無線機に装着した状態で、キー操作と充電(BC-161 #02を使用時)ができます。

バ ッ テ リ ー 関 係

BP-220N★ :リチウムイオンバッテリーパック(2660mAh)
BP-246★ :リチウムイオンバッテリーパック(1850mAh)
BP-274★ :リチウムイオンバッテリーパック(1800mAh)
※ 近日発売予定
BP-221 :アルカリ電池ケース(単3形アルカリ電池×5本)

充 電 す る

BC-161 #02:卓上急速充電器
※ 別売品のACアダプター(BC-165)を別途お買い求めください。
BC-165 :ACアダプター
※ BC-161 #02用の電源
BC-121NA :6連急速充電器
※ 別売品のACアダプター(BC-157S)、またはDC電源ケーブル(OPC-656)を別途お買い求めください。
BC-157S :ACアダプター
※ BC-121NA用の電源
OPC-656 :DC電源ケーブル
※ BC-121NA用の電源

腰 に か け る

MB-97 :ベルトクリップ(ステンレス製)
MB-98 :ベルトクリップ
MB-86 :回転式ベルトクリップ

肩 に か け る

MB-57L :ショルダーストラップ(LC-154/164/166用)
MB-80 :ショルダーストラップ(BP-220N/221/246/274用)

変換アダプター/アンテナ関係

AD-52 :イヤホンジャックアダプター(ジャック:3.5φ)
FA-S04U★ :防水形短縮アンテナ
※補修用

スピーカーマイク関係

EM-80 :スピーカーマイク
HM-172★ :防水形スピーカーマイク
HM-183SJ★:防水形スピーカーマイク
HM-186SJ :小型スピーカーマイクロホン

スピーカー関係

EH-11 :イヤーパッド型スピーカー(プラグ:2.5φ)
EH-12 :ヘルメット取り付け型スピーカー(プラグ:2.5φ)

イヤホン関係

EH-13 :耳かけ型イヤホン(プラグ:2.5φ)
EH-14 :オープンエアー型イヤホン(プラグ:2.5φ)
EH-15 :イヤホン(プラグ:2.5φ)
※EH-15B(黒色)
SP-28 :耳かけ型イヤホン(プラグ:2.5φ)
SP-16 :耳かけ型イヤホン(プラグ:3.5φ)
※SP-16B(黒色)/SP-16BW(黒色/ロングケーブル)
SP-29 :耳かけ型イヤホン(プラグ:3.5φ)
※SP-29L(L型プラグ:3.5φ)
SP-32 :チューブ式イヤホンアダプター
※別売品のEH-15シリーズ、または別売品のSP-16シリーズを別途お買い求めください。

マイクロホン/ヘッドセット関係

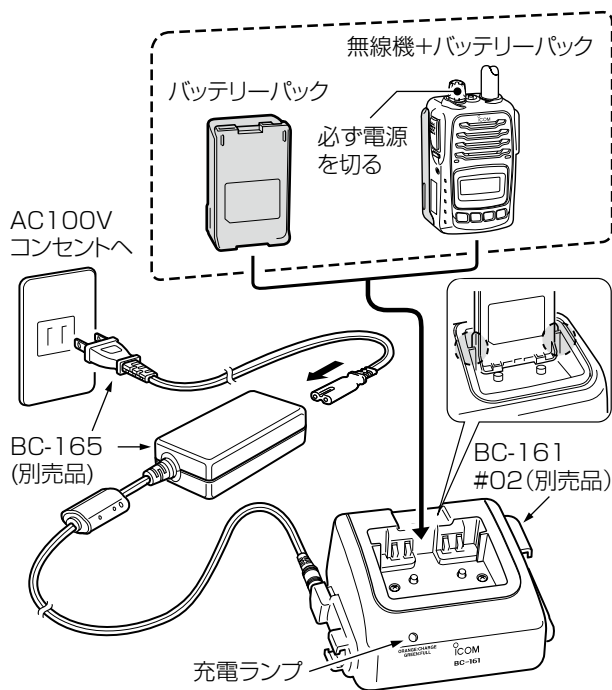
HM-104 :単一指向性タイピン型マイクロホン
※HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)
HM-109 :接話タイピン型マイクロホン
※HM-163(HM-109のコネクター部分だけが防水仕様)
HS-86 :ヘルメット取り付け型ヘッドセット
HS-88 :ヘッドセット
HS-92 :ヘルメット取り付け型ヘッドセット(ワニ口で固定)
HS-99 :耳かけ式イヤホンマイク
※別売品のVOXユニット(VS-2SJ)を別途お買い求めください。
VS-2SJ :VOXユニット
※IPX4相当の防水性能
※別売品の耳かけ式イヤホンマイク(HS-99)を別途お買い求めください。
OPC-636:マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ロック仕様)
※OPC-636A(防塵仕様)
OPC-637:マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル(ノンロック仕様)

■ BC-161 #02（卓上急速充電器）:充電のしかた

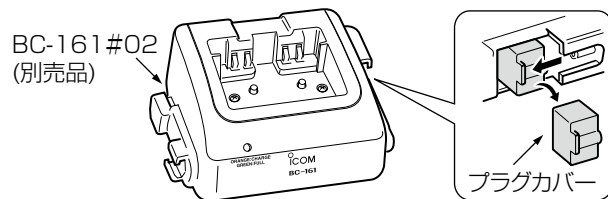
バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

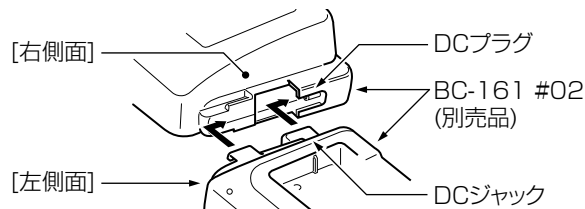
充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※ 赤色で点滅する場合は、53ページをご覧ください。

※ BC-161 #02の電源には、必ずBC-165（別売品）をご使用ください。

■ BC-161 #02の連結充電について

充電器を最大4台まで連結して、同時に充電できます。

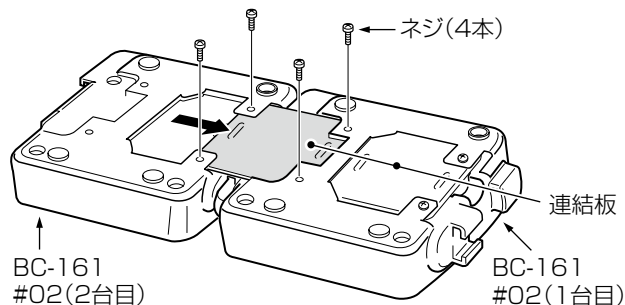
① 充電器の右側面に差し込まれているDCプラグカバーを図の方向に取りはずします。

② 右側面にあるDCプラグと、もう1台の充電器（左側面）にあるDCジャックを**「カチッ」**と音がするまで差し込みます。

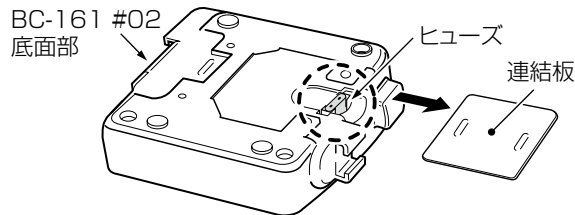
（手順③☞次ページへ）

⚠警告

BC-161 #02を連結して充電できるのは、最大4台までです。

それ以上の台数を連結して充電しないでください。

火災、発熱、感電、けが、故障の原因になります。

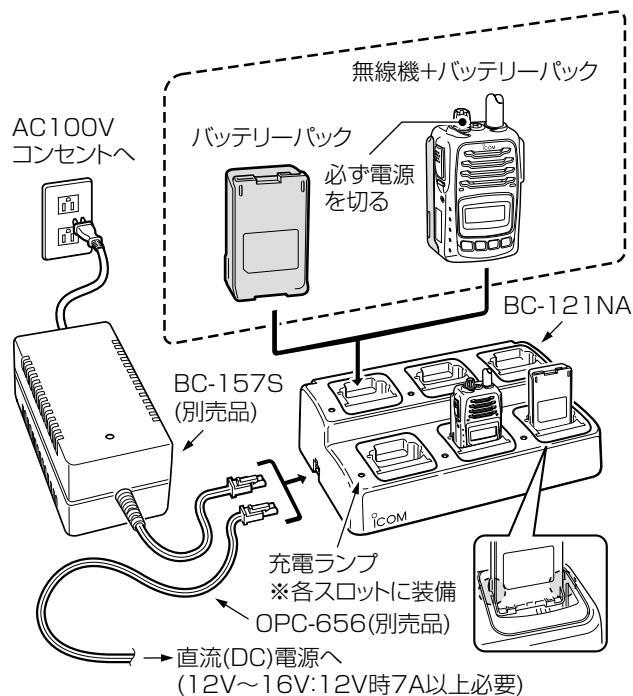
③ 底面部(2台目の充電器)にある連結板を固定するネジ(2本)を取りはずして、連結板を1台目の充電器の方に移動させます。
取りはずしたネジ(2本)と充電器に付属のネジ(2本)で連結板を固定します。

■ BC-161 #02のヒューズ交換について

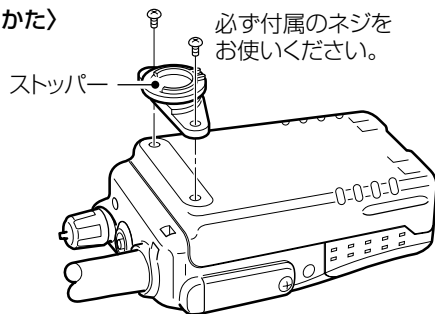
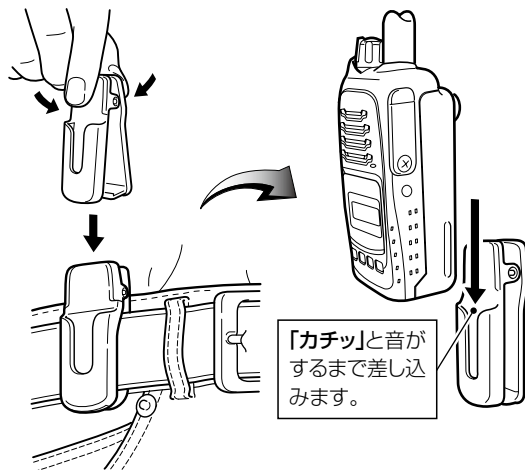
ヒューズが切れ、充電ランプが点灯しないときは、原因を取り除いてから、下記のヒューズ(4A/32V)を取り替えてください。

■ BC-121NA(6連急速充電器):充電のしかた

バッテリーパックを単体、または無線機に装着した状態で急速充電できます。

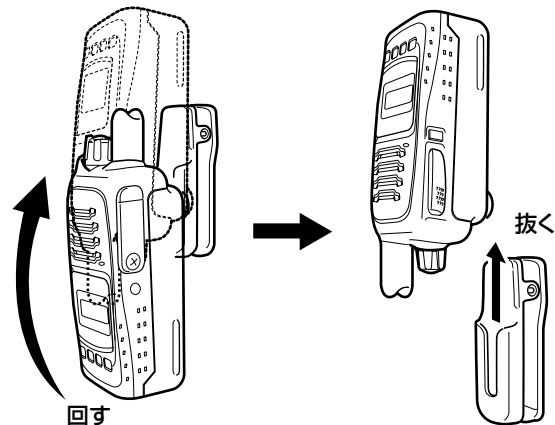
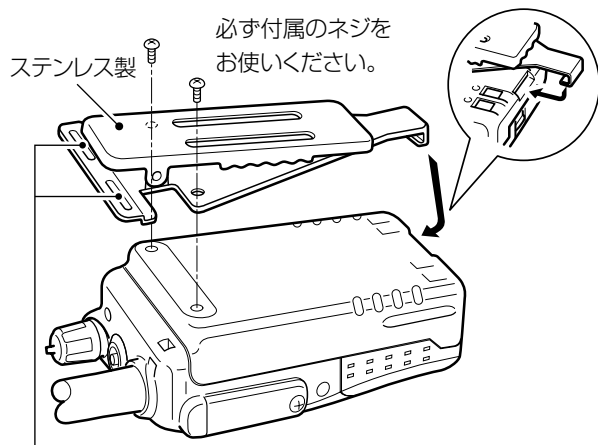
充電ランプは、充電中に橙色、充電完了で緑色に点灯します。

※ 赤色で点滅する場合は、53ページをご覧ください。

※ BC-121NAに付属の取扱説明書と併せてご覧ください。

■ MB-86(回転式ベルトクリップ)

〈組み立てかた〉

〈無線機の取り付けかた〉

〈無線機のはずしかた〉

回転式ベルトクリップから無線機をはずすときは、無線機を回転させてから引き抜きます。

【ストッパーの破損にご注意ください。】
落としたり、強い衝撃が加わったりして、ストッパー部分を破損すると、回転式ベルトクリップが正常に機能しないおそれがあります。

■ MB-97（ベルトクリップ）

MB-57L(ショルダーストラップ)やMB-80のストラップ部を取り付けできます。

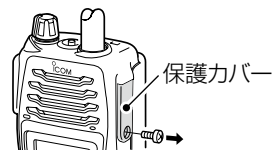
⚠注意

腰などに固定するときは、指を挟まないようご注意ください。

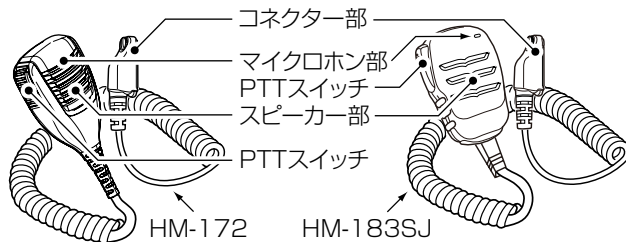
■ 別売品を接続するには

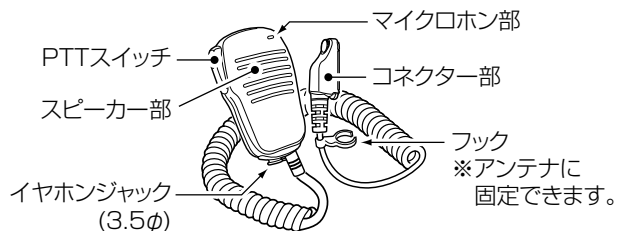
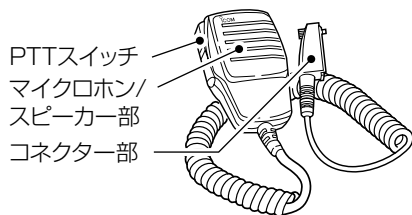
端子保護のため、別売品を接続しないときは、保護カバーを取り付けてご使用ください。

〈保護カバーのはずしかた〉

① 市販のドライバーを用意します。
② 無線機の側面側にある保護カバー固定用のネジ(1本)をはずします。
③ 保護カバーをはずします。

■ HM-172★/HM-183SJ（防水形スピーカーマイク）

IPX7相当の防水性能があります。

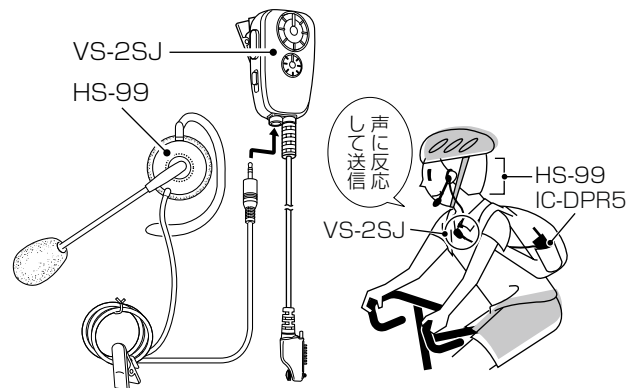
★HM-172を使用するときは、外部電源制御の設定(☞P31)を「5V」にしてください。

■ HM-186SJ（小型スピーカーマイクロホン）

SP-16、SP-16B、SP-16BW、SP-29、SP-29Lと組み合わせてご使用になれます。

■ EM-80（スピーカーマイク）

■ VS-2SJ★（VOXユニット）/ HS-99（耳かけ式イヤホンマイク）

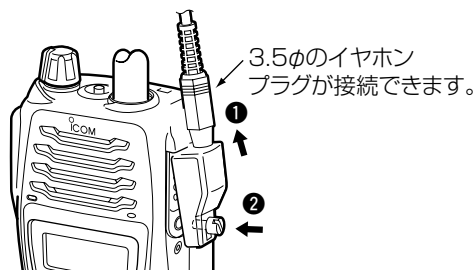
［PTT（送信）］スイッチを押さなくても、マイクロホンからの音声によって送受信を自動的に切り替える機能です。

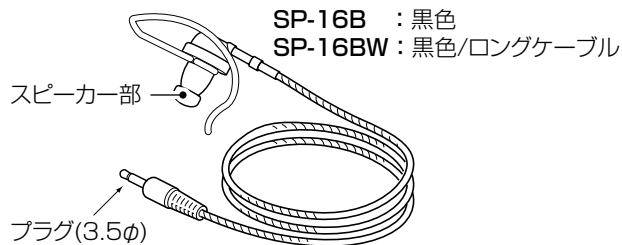
通話をやめると受信に切り替わります。

※ 詳しくは、VS-2SJに付属の説明書をご覧ください。

★ VS-2SJを使用するときは、外部電源制御の設定（☞P31）を「5V」にしてください。

■ AD-52（イヤホンジャックアダプター）

SP-16、SP-16B、SP-16BW、SP-29、SP-29Lと組み合わせてご使用になれます。

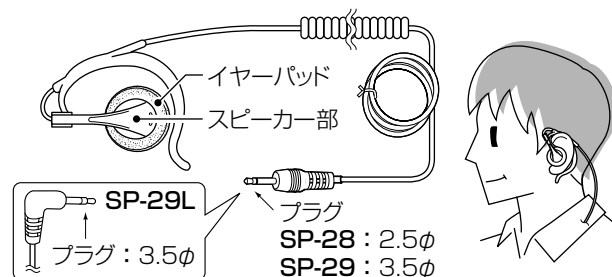
※ 装着しても、イヤホンプラグが接続されるまでは、無線機内蔵のスピーカーが機能します。

■ SP-16/SP-16B/SP-16BW（耳かけ型イヤホン）

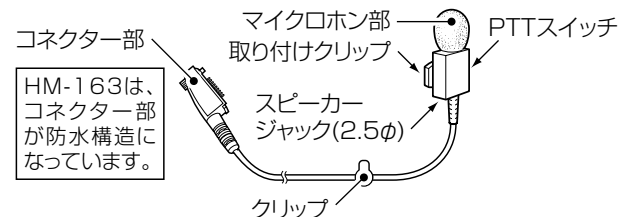
AD-52、HM-186SJと組み合わせてご使用になれます。

※ どちらの耳にも使用できます。

■ SP-28/SP-29/SP-29L（耳かけ型イヤホン）

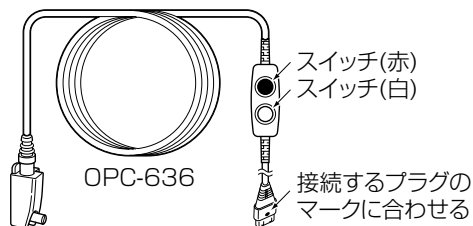
HM-109、HM-163には、SP-28を組み合わせてご使用になれます。

また、AD-52、HM-186SJには、SP-29、SP-29Lを組み合わせてご使用になれます。

※ どちらの耳にも使用できます。

■ HM-109/HM-163（接話タイピン型マイクロホン）

EH-12、EH-13、EH-14、EH-15、SP-28と組み合わせてご使用になれます。

■ OPC-636/OPC-636A★/OPC-637
(マイクスイッチ内蔵型接続ケーブル)

HS-86、HS-88、HS-92、HM-104、HM-104Aを接続してご使用になれます。

★ OPC-636Aは、OPC-636のスイッチ部分が防塵仕様です。

〈OPC-636/OPC-636Aの場合〉

赤色のスイッチは、ノンロック(未固定)式です。

※ 白色のスイッチが出ている(出)とき使用できます。

- ● ▭ :押しているあいだだけ通話状態になる
- ● ⊓ :はなすと待ち受け状態になる

白色のスイッチは、ロック(固定)式です。

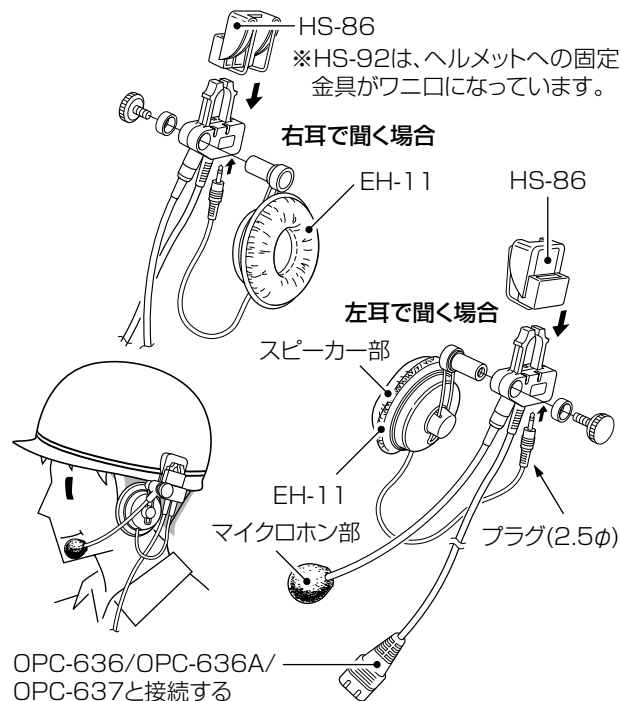
- ● ▭ :押し込む(入)と通話状態になる
- ● ⊓ :出ている(出)と待ち受け状態になる

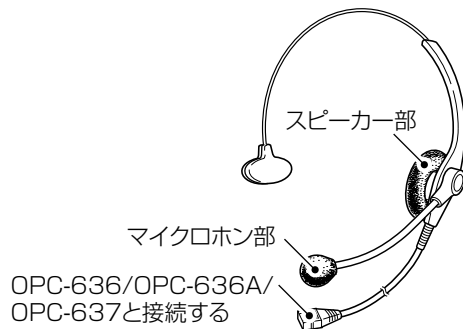
〈OPC-637の場合〉

黒色のスイッチは、ノンロック(未固定)式です。

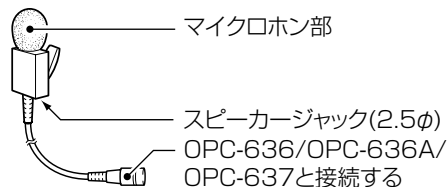
- ● ▭ :押しているあいだだけ通話状態になる
- ● ⊓ :はなすと待ち受け状態になる

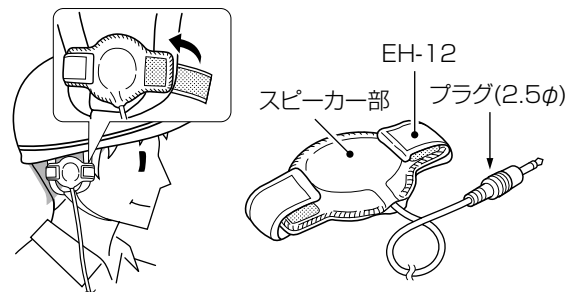
■ HS-86/HS-92(ヘルメット取り付け型ヘッドセット)とEH-11(イヤーパッド型スピーカー)の組み立て

EH-11、EH-12、EH-13、EH-14、EH-15、およびOPC-636、OPC-636A、OPC-637と組み合わせてご使用になれます。

■ HS-88(ヘッドセット)

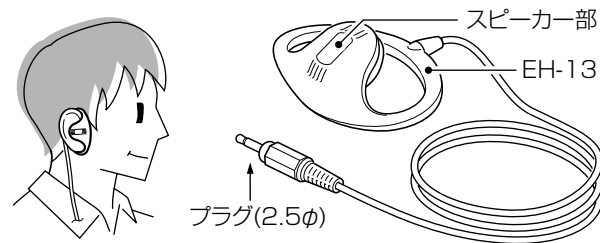
OPC-636、OPC-636A、OPC-637に接続してご使用になれます。

■ HM-104(単一指向性タイピン型マイクロホン)/ HM-104A(無指向性タイピン型マイクロホン)

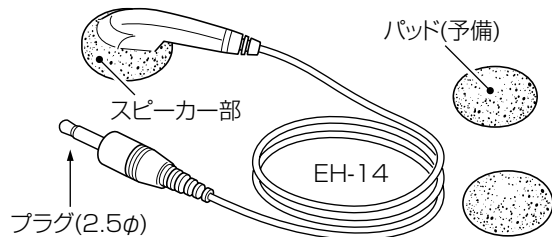
OPC-636、OPC-636A、OPC-637に接続してご使用になれます。

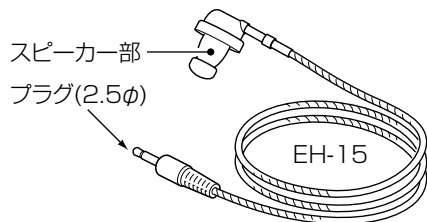
スピーカージャックには、EH-12、EH-13、EH-14、EH-15が必要です。

■ EH-12(ヘルメット取り付け型スピーカー)

HS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

■ EH-13(耳かけ型イヤホン)

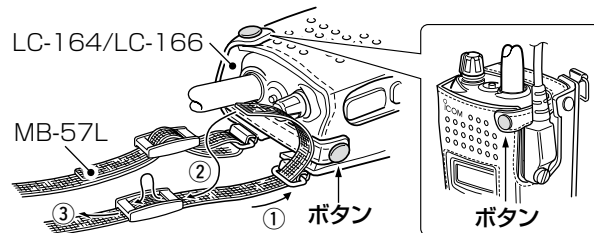
HS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

※ どちらの耳にも使用できます。

■ EH-14(オープンエアー型イヤホン)

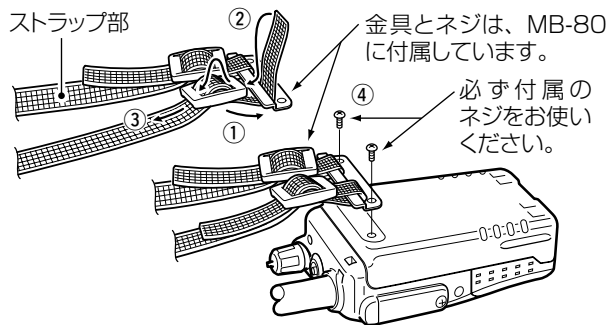
HS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

■ EH-15(イヤホン)

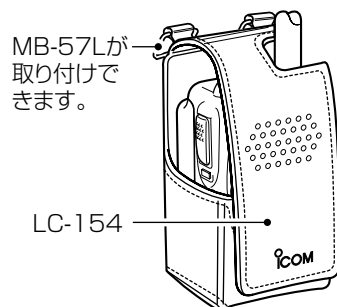
HS-86、HS-92、HM-104、HM-104A、HM-109、HM-163と組み合わせてご使用になれます。

■ MB-57L(ショルダーストラップ)の取り付け

図(①〜③)の順に取り付けます。

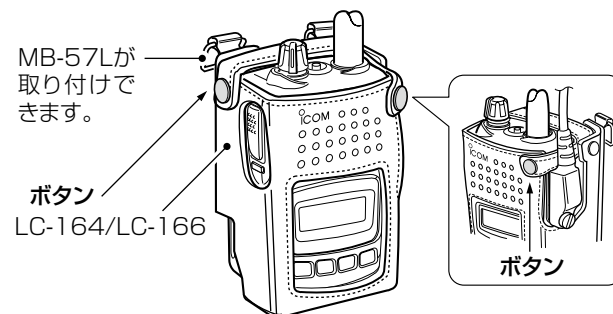
LC-154、LC-164、LC-166と組み合わせてご使用になれます。

■ MB-80(ショルダーストラップ)の取り付け

図(①〜④)の順に取り付けます。

ストラップ部は、LC-154、LC-164、LC-166と組み合わせてご使用になれます。

■ LC-154(ハードケースL)

BP-220N、BP-221と組み合わせてご使用になれます。

■ LC-164/LC-166(ハードケースS/ハードケースL)

BP-246、BP-274にはLC-164、BP-220N、BP-221には
LC-166を組み合わせてご使用になれます。

※ 本製品に付属の卓上充電器(BC-152NJ)を使用する場合は、LC-164/LC-166を装着した状態で充電できません。
装着した状態で充電する場合は、別売品のBC-161 #02をお買い求めください。

10 ご参考に

■ 日常のお手入れと点検について

◎ 清掃するときは、洗剤や有機溶剤(シンナー、ベンジンなど)を絶対に使用しないでください。
ケースが損傷したり、塗装がはがれたりする原因になることがあります。
ふだんは、乾いたやわらかい布でふき、汚れのひどいときは、水を含ませたやわらかい布をかたく絞ってふいてください。
また、バッテリーパック(BP-220N/BP-246/BP-274)やアルカリ電池ケース(BP-221)を取りはずした状態では、乾いたやわらかい布でふいてください。

◎ 無線機本体、充電器、バッテリーパック、アルカリ電池ケースの各端子(充電端子や電源端子)にゴミやホコリが付着すると、接触不良が原因で正常に動作しないことがあります。
各端子は、定期的に乾いたやわらかい布でふいてください。

◎ 使用される前に、電池の容量が十分残っているか、表示部の残量表示(☞P3)を確認してください。
また、アルカリ電池ケース、またはバッテリーパックなどがしっかりと装着されているか点検してください。

◎ 定期的に決まった位置の相手局と通話して、通話状態に変化がないかを調べてください。

◎ 音量が最小に調整されていないか、**[電源/音量]**ツマミを回して、表示部の音量表示(☞P8)を確認してください。

■ 初期状態に戻す(リセットする)には

下記の操作で、すべての設定が工場出荷時の状態になります。

【操作のしかた】

①「詳細セットモード」(☞P29)に移行します。
● 「Pビープ OFF」を表示します。

② **[EDIT]**キーを1回押します。
● 「リセット NO」を表示します。

③ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを押して、「リセット YES」表示を選択します。

④ **[PTT(送信)]**スイッチを短く押します。
● 一時的に電源が切れ、初期状態になります。

【ご注意】

「全設定初期化(リセット)」は、バッテリーパックの残量表示が「十分」の状態(☞P3)で操作してください。
なお、設定値がリセットされ再起動するまでの2秒間は、無線機の電源を切らないでください。

※リセットの途中で電源が切れると、故障の原因になることがあります。

■ 故障かな?と思ったら

下記のような現象は故障ではありませんので、修理を依頼される前にもう一度お調べください。
それでも異常があるときは、弊社サポートセンター(☞P54)までお問い合わせください。

現　象	原　因	処　置	参 照
電源が入らない	端子の接触不良	バッテリーパック、またはアルカリ電池ケースの端子を清掃する なお、アルカリ電池ケースをご使用の場合は、電池の極性を間違えていないかを確認する	—
	バッテリーパック、または電池の消耗	バッテリーパックは充電し、電池は入れ替える	—
	バッテリーパックをご使用の場合、過放電保護回路が動作している	無線機からバッテリーパックを取りはずし、少し充電したあとにバッテリーパックをもう一度装着してから電源を入れる	—
スピーカーやイヤホンから音が聞こえない	音量が最小に調整されている	無線機本体の音量調整値を確認する ※ 実際の音量を確認しならが調整する場合は、[MONI]スイッチを押しながら[電源/音量]ツマミを回して音量を確認する	P8
送信できない (プップッ・・・が鳴る)	5分間の送信時間制限が過ぎたとき	1分以上待ってから、もう一度送信する	P11
	ほかの無線機が送信しているため、混信防止機能が動作している	[送信/受信]ランプ(緑色)が消灯してから送信する	P11
通話できない	通話チャンネルが合っていない	相手と同じ通話チャンネルに合わせる	P9
	ユーザーコードを設定していない	相手と同じユーザーコードを設定する	P12
	相手が秘話機能を使用していない、または自分と秘話キーの設定が異なる	相手の秘話機能と秘話キーの設定を確認する	P15
	相手局番号、またはグループ番号を間違えている	相手局番号、またはグループ番号を確認する	P22
相手から応答がない	相手との距離がはなれすぎている	場所を移動してから通話してみる	P11
	相手局が不在、または電源を切っている	自局、または相手局の状態を確認する	—
通話チャンネル選択と送信出力切り替え以外の操作ができない	呼出用チャンネル(呼出CH)を設定している	通話チャンネル(CH01～CH14、CH16～CH30)に変更する	P9
ボタンやキーを押すと、「キーロック」と表示される	ロック機能が動作している	ロック機能を解除する	P24

■ 故障かな?と思ったら(つづき)

現　象	原　因	処　置	参 照
充電が完了しない	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	P4、P41、P42
BC-152NJ(付属品)で充電中に、充電ランプが橙色、または緑色で点滅、消灯している	バッテリーパックが正しく差し込まれていない	充電器に正しく差し込まれていることを確認する	P4
	0℃~45℃以外の環境で充電している	0℃~45℃の環境で充電する	
	各端子(充電端子や電源端子)の接触不良	ゴミやホコリが各端子に付着していないことを確認する	
BC-161 #02/BC-121NA(別売品)で充電中に、充電器のランプが赤色で点滅する	無線機の電源を入れた状態で充電している	無線機の電源を切った状態で充電する	P41、P42

※ 上記の処置で変化のない場合は、バッテリーパックの故障または寿命ですので、お買い上げの販売店、または弊社サポートセンターにお問い合わせください。

■ 周波数一覧表

本製品のチャンネル(CH)には、下記の周波数が割り当てられています。

CH	送/受	周波数(MHz)
01	送受	351.20000
02	送受	351.20625
03	送受	351.21250
04	送受	351.21875
05	送受	351.22500
06	送受	351.23125
07	送受	351.23750
08	送受	351.24375
09	送受	351.25000
10	送受	351.25625
11	送受	351.26250

CH	送/受	周波数(MHz)
12	送受	351.26875
13	送受	351.27500
14	送受	351.28125
15	**送受**	**351.28750**
16	送受	351.29375
17	送受	351.30000
18	送受	351.30625
19	送受	351.31250
20	送受	351.31875
21	送受	351.32500
22	送受	351.33125

CH	送/受	周波数(MHz)
23	送受	351.33750
24	送受	351.34375
25	送受	351.35000
26	送受	351.35625
27	送受	351.36250
28	送受	351.36875
29	送受	351.37500
30	送受	351.38125

CH	送/受	周波数(MHz)
S1	受	351.16875
S2	受	351.17500
S3	受	351.18125
S4	受	351.18750
S5	受	351.19375

※ 本製品では、CH15(呼出用チャンネル)を「呼出CH」と表示します。(☞Pi)

※ 出荷時、上空用チャンネル(S1~S5)は、「OFF」(☞P38)に設定されています。

■ アフターサービスについて

「故障かな？と思ったら」(☞P52、P53)にしたがって、もう一度、本製品の設定などを調べていただき、それでも異常があるときは、次の処置をしてください。

保証期間中は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

保証規定にしたがって修理させていただきますので、保証書を添えてご依頼ください。

保証期間後は

お買い上げの販売店にお問い合わせください。

修理することにより機能を維持できる製品については、ご希望により有料で修理させていただきます。

- **保証書について**

  保証書は販売店で所定事項(お買い上げ日、販売店名)を記入のうえお渡しいたしますので、記載内容をご確認いただき、大切に保管してください。

- **弊社製品のお問い合わせ先について**

  お買い上げいただきました弊社製品にご不明な点がございましたら、下記のサポートセンターにお問い合わせください。

お問い合わせ先

アイコム株式会社　サポートセンター

0120-156-313(フリーダイヤル)

◆ **携帯電話・PHS・公衆電話からのご利用は、**
06-6792-4949(通話料がかかります)

受付(平日 9:00～17:00)

電子メール：support_center@icom.co.jp

アイコムホームページ：http://www.icom.co.jp/

- 弊社製品の故障診断、持ち込み修理などの修理受付窓口は、別紙の「サービス受付窓口一覧」、または弊社ホームページ http://www.icom.co.jp/ をご覧ください。

11 定格

■ 無線機本体

- 送信周波数範囲:351.20000〜351.38125MHz
- 受信周波数範囲:351.16875〜351.38125MHz
- チャンネル数:30チャンネル(送信)
  30+5チャンネル★1.(受信)
  ★1.上空用チャンネル(S1〜S5)
- 電波型式:F1E/F1D/F1F
- 変調方式:4値FSK
- 使用温度範囲:−20℃〜+60℃
- 電源電圧:7.4V(BP-220N/BP-246/BP-274)
- 消費電流:2.2A以下(送信時:5W)
  1A以下(送信時:1W)
  350mA以下(受信時)
  160mA以下(待ち受け時)
  70mA以下(パワーセーブ時)
- 送信出力:5W/1W(偏差:+20%、−50%)
- 低周波出力:500mW以上(8Ω、10%歪時)
- 接地方式:マイナス接地
- アンテナインピーダンス:50Ω(不平衡)
- 受信方式:ダブルスーパーヘテロダイン方式
- 受信感度:0.28μV以下
  (BER=1×10^{-2} スタティック時)
  0.90uV以下
  (BER=3×10^{-2} フェージング時)
- 外形寸法:56(W)×98.2(H)×33(D)mm★2.
  ★2.突起物を除く、BP-246装着時
- 重量:約264g(アンテナ、BP-246装着時)

■ BC-152NJ卓上充電器(付属品)

- 定格入力電圧:AC100V(50/60Hz) ※BC-122の入力電圧
- 使用温度範囲:0〜45℃
- 重量:約140g
- 寸法:86(W)×81(H)×78.5(D)mm

■ BC-161 #02卓上急速充電器(別売品)

- 定格入力電圧:AC100V(50/60Hz) ※BC-165の入力電圧
- 使用温度範囲:0〜40℃
- 重量:約225g
- 寸法:122.5(W)×59.7(H)×95.0(D)mm

※BC-121NA(6連急速充電器:別売品)については、BC-121NAに付属の取扱説明書をご覧ください。

※定格・仕様・外観等は、改良のため予告なく変更する場合があります。

切り取り線

ICOM

簡単ご利用ガイド
IC-DPR5

このガイドは、本製品をはじめてお使いになるかたの手元に登録状が届いたあと、すぐに通話を開始するための操作手順を説明しています。
※ 破線に沿って切り取り、折り畳んでいただくことにより、携帯できる大きさになります。

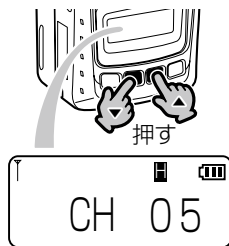
1. 電源を入れ、音量を調整する(☞P8)

❶ **[電源/音量]**ツマミを時計まわりに回します。
❷ **[MONI]**スイッチを押しながら、聞きやすい音量に調整します。
- 表示部に音量を表示します。
（表示例：音量 10）

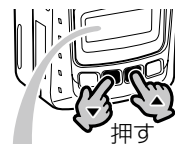
2. 通話チャンネルを合わせる(☞P9)

【通話チャンネルが決まっている場合】

[▼](ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、相手と同じ通話チャンネル(例：05)に合わせます。
- 選択範囲：01～14、16～30

※ 相手と通話チャンネルが異なるときは、通話できません。

2. 通話チャンネルを合わせる(つづき)

【通話チャンネルが決まっていない場合】

[▼](ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、「呼出CH」(呼出用チャンネル：CH15)に合わせます。

〈呼出用チャンネルについて〉

このチャンネルは、一時的な呼び出しにだけ使用しますので、ユーザーコードや秘話機能を使用できません。

呼出用チャンネル表示

「呼出CH」で呼び出し後、通話をつづける場合は、空いている通話チャンネルに切り替えてから通話してください。

3. [PTT(送信)]スイッチを押す(☞P9)

[PTT(送信)]スイッチを押しつづけると、ビープ音が**「ピッ」**となりますので、マイクロホンに向かって通話相手に呼びかけます。
- **[PTT(送信)]**スイッチを押しているあいだは、**[送信/受信]**ランプが赤色に点灯します。

4. 相手の音声を受信する(☞P10)

[PTT(送信)]スイッチをはなすと待ち受け状態になり、相手局が送信すれば、受信した音声が聞こえます。

5. 通話をつづける(☞P10)

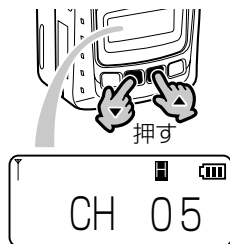
【通話チャンネルが決まっている場合】

送信と受信は交互に繰り返して通話をつづけます。

【通話チャンネルが決まっていない場合】

❶ 空いている通話チャンネル(CH01〜CH14、CH16〜CH30)を通話相手に伝えて、**[PTT(送信)]**スイッチをはなします。

❷ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、相手に伝えた通話チャンネル(例:CH 05)に合わせます。

❸ 送信と受信を交互に繰り返して通話をつづけます。

◆ 通話チャンネルに設定できる便利な機能

◎ 通話チャンネル(CH01〜CH14、CH16〜CH30)には、ユーザーコード★、および秘話キー★を設定できます。

★同じ設定の相手とだけ通話できます。

◎ プライベートチャンネル機能(☞P25)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01〜CH14、CH16〜CH30)の切り替えに便利です。

◎ プライベートチャンネルスキャン機能(☞P26)を使用すると、「呼出CH」(呼出用チャンネル:CH15)と通話チャンネル(CH01〜CH14、CH16〜CH30)の通信を交互に受信(監視)できます。

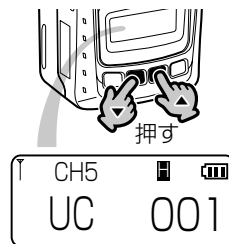
◆ ユーザーコード(UC)について(☞P12)

同じユーザーコードを設定する相手とだけ通話できます。

❶相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に設定します。

❷ **[FUNC]**キーを繰り返し短く押して、「UC OFF」表示を選択します。

❸ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じユーザーコード(例:001)を設定します。

※ **[EDIT]**キーを短く繰り返し押すと、編集できる桁が点滅します。
[FUNC]キーを押すと、点灯に変わり、確定します。

◆ 秘話機能について(☞P15)

同じ秘話キーを設定する相手とだけ通話できます。

❶相手と同じ通話チャンネル(例:CH 05)に設定します。

❷ **[FUNC]**キーを繰り返し短く押して、「秘話 OFF」表示を選択します。

❸ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを短く押して、「秘話 ON」表示に切り替えます。

❹ **[EDIT]**キーを短く1回押します。
※短く2回押したときは、編集できる桁が点滅します。

❺ **[▼]**(ダウン)キー、または**[▲]**(アップ)キーを繰り返し押して、通話する相手と同じ秘話キー(5桁)を設定します。

❻ **[FUNC]**キーを押すと、確定します。

さくいん

さくいん

さくいん

高品質がテーマです。

A-6773H-1J-⑤
Printed in Japan

この印刷物は環境にやさしい再生紙と植物性インクを使用しています。

アイコム株式会社
547-0003 大阪市平野区加美南1-1-32